

Golden Days Abroad in Derbyshire

2014

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて～

第1回 ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書



目次

	page
■はしがき	2
■ダービーシャー派遣学生・受入家庭名簿	3
■派遣日程・研修日程	6
■ホストファミリー紹介	7
■滞在中の当番日記	17
■レポート	28
■派遣を終えて	49
派遣学生 安藤 彰啓	50
内田 さくら	52
岡田 溪冴	54
小澤 朱里	55
河邊 ゆき野	57
工藤 穂乃香	59
河野 秀真	60
下温湯 準平	62
鈴木 瑞菜	64
高野 花帆	66
中垣 早貴	68
西山 萌	69
細井 里美	71
松岡 奈那	72
山本 瀬奈	75
和田 彩果	78
引率教諭 稲垣 宏行	80
山本 岩男	82
■豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料	85

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

1998年(平成10年)、豊田市とイギリスダービーシャーの3地域(ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市)との間に姉妹都市提携が結ばれてから、今年で17年目を迎えました。豊田市は「クルマのまち」として世界にその名を知られ、日本の製造業の中心地としての役割を果たしてまいりました。同じく産業革命発祥の地であり、近代産業発展の歴史とともに歩んできたダービーシャー県をはじめ、航空機エンジンの生産拠点があるダービー特別市や日本の自動車メーカーの現地法人がある南ダービーシャー市のダービーシャー3地域とは平成30年には姉妹都市提携20周年を迎えます。その歴史の中で、市民同士の友情を育んでまいりました。

ダービーシャーへの高校生派遣事業は平成26年度に始まり、今後の両自治体の親善への貢献が期待されます。本年3月14日に豊田市を出発した高校生派遣団18名も、約2週間に及ぶ友好親善の務めを果たし、3月27日に無事帰国いたしました。派遣団の帰国あいさつでは、学生が現地で学んだ英国の歴史や現地の人々との交流の中で、肌で感じた文化の違いについての報告を受け、今後は、さらに自身の英語力を高めたいと意欲を見せるなど、今回の経験をこれからの人生に生かしたいと力強い決意を聞くことができました。

昨今、本市には、海外生活で得た経験をビジネスや学業等に発揮している市民が多く居住しておりますし、ビジネス等を目的に本市を訪れる外国人も増加しています。また、本市には就労を目的として来日し、その後日本で暮らすことを選択した外国籍市民、日本人と結婚し、日本で暮らすことを決意した外国籍市民も多く、今後も国際化の傾向は強まると予想されます。

その一方で、最近では海外留学に消極的であったり、海外勤務を敬遠したりという、若い世代の内向き志向が指摘されております。あらゆる情報が容易に手に入る今日、海外へ出かけなくても、知識は得られるかも知れません。しかし、「百聞は一見に如かず」とのことわざにあるとおり、自ら進んで得た経験こそが、自身をより成長させるのだと信じております。今後もこの事業に対し、高校生の皆様が積極的に参加されることを期待しております。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、高校生派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジ事務局、ホストファミリー、ダービーシャー地域住民の皆様にご心からお礼申し上げます。

派遣学生・受入家庭名簿

氏 名	勤務先・学校 (学年)	受 入 家 庭
派遣学生 安藤 彰啓 Akihiro Ando 	豊田工業高等学校 2年	The Davey Family
派遣学生 内田 さくら Sakura Uchida 	衣台高等学校 2年	The Brookes Family
派遣学生 岡田 溪冴 Keigo Okada 	豊田工業高等専門学校 2年	The Davey Family
派遣学生 小澤 朱里 Akari Ozawa 	豊田西高等学校 2年	The Boswell Family
派遣学生 河邊 ゆき野 Yukino Kawabe 	豊野高等学校 2年	The Denod Family
派遣学生 工藤 穂乃香 Honoka Kudo 	豊田高等学校 2年	The Armstrong Family
派遣学生 河野 秀真 Shuma Kono 	杜若高等学校 1年	The Skripek Family
派遣学生 下温湯 準平 Junpei Shimonuri 	松平高等学校 1年	The Skripek Family

派遣学生・受入家庭名簿

氏 名	勤務先・学校 (学年)	受 入 家 庭
派遣学生 鈴木 瑞菜 Mizuna Suzuki	 足助高等学校 2年	The Sahu Family
派遣学生 高野 花帆 Kaho Takano	 豊田南高等学校 2年	The Akers Family
派遣学生 中垣 早貴 Saki Nakagaki	 豊田東高等学校 2年	The Boswell Family
派遣学生 西山 萌 Moe Nishiyama	 加茂丘高等学校 2年	The Sahu Family
派遣学生 細井 里美 Satomi Hosoi	 南山国際高等学校 1年	The Armstrong Family
派遣学生 松岡 奈那 Nana Matsuoka	 猿投農林高等学校 2年	The Akers Family
派遣学生 山本 瀬奈 Sena Yamamoto	 豊田大谷高等学校 2年	The Denod Family
派遣学生 和田 彩果 Ayaka Wada	 豊田北高等学校 2年	The Brookes Family

引率教員・受入家庭名簿

氏 名	勤務先・学校（学年）	受 入 家 庭
引率教員 山本 岩男 Iwao Yamamoto 	豊田西高等学校	Mike Larkin and Kulwinder Bola
引率教員 稲垣 宏行 Hiroyuki Inagaki 	豊田東高等学校	Mike Larkin and Kulwinder Bola

派遣日程

月 日	時 間	活 動 内 容
3月14日(土)	10:25 15:00 16:40 17:15	中部国際空港 発 (ルフトハンザ国際航空第 737 便) フランクフルト国際空港 着 フランクフルト国際空港 発 (ルフトハンザ国際航空第 956 便) バーミンガム国際空港 着
3月15日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
3月16日(月)	午前 午後	オリエンテーション、キャンパスツアー バートン市街地ツアー
3月17日(火)	午前 午後	イギリス文化、文化遺産と歴史講座 地域の歴史・経済・産業環境の紹介
3月18日(水)	終日	ロスリントン林業センターでのスポーツ・野外活動
3月19日(木)	終日	ストラット・アポン・エイヴオン (シェークスピアの生家等) ツアー
3月20日(金)	終日	英国料理の調理体験 (日本料理の紹介含む)
3月21日(土)	終日	ロンドン日帰り遠足
3月22日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
3月23日(月)	終日	キャドバリー・チョコレート工場見学
3月24日(火)	午前 午後	クリエイティブ・メディア・ワークショップ1 クリエイティブ・メディア・ワークショップ2
3月25日(水)	午前 午後	エキシビション&カルチャーショー準備 ブリューハウス・アートセンターのパフォーマンス見学、 エキシビション&カルチャーショー
3月26日(木)	13:40 16:20 20:45	バーミンガム空港 発 (全日空第 5868 便) フランクフルト国際空港 着 フランクフルト国際空港 発 (全日空第 224 便)
3月27日(金)	16:15 18:25 19:30	羽田空港 着 羽田空港 発 (全日空第 85 便) 中部国際空港 着

研修日程

7月 1日(火)	派遣生徒募集・選考
～8月31日(日)	
9月25日(木)	派遣生徒決定・通知
10月18日(土)	第1回事前研修会 (派遣日程・参加負担金・渡航説明等)
11月 8日(土)	語学研修 (イギリス英語とアメリカ英語の違い、ホームステイ先での
～3月 7日(土)	コミュニケーションやエチケットなど)、旅行者からの渡航の説明等
3月11日(水)	市長・市議会議長への出発挨拶、表敬訪問
4月 2日(木)	市長・市議会議長への帰国報告、表敬訪問

ホストファミリー紹介

私たちがお世話になった Anne Brookes さんは、少しいいかげんなところもあったけど、明るく陽気な人でした。Anne は私たち以外にもホームステイの経験がたくさんあるようで夕食のときには、タイの女の子はとても賢いのよ！リビアの子はずっと寝ていたの！などと今までホームステイに来た生徒の話をよくしてくれました。Anne は Archie と Evie という二匹のペルシャ猫を飼っていて、Evie は恥ずかしやさんで、Archie はいつもご飯を狙ってきました。Anne は Archie と Evie は鼻が低いから豚みたいな音がするの!!と真似をしていたのは印象的です。週末には Anne のボーイフレンドのマーティンが来て遊びに連れて行ったりしてくれました。ホームステイの間 Anne は私たちにとっても親切に接してくれました。たとえば、私たちの両方ともホームステイ中



に誕生日がくるのでケーキをだしてくださったり、イギリスにはあまり横断歩道がないので家の前のバス停まで一緒に道路を渡ってくださったりしました。また、驚かされることも多々ありました。特に食器の洗い方には驚かされました。日本では食洗機またはスポンジで洗いますが、Anne はシンクに水をためて洗剤を入れてすすぐだけであったり、ティーポットはお茶の味をよくするという理由で使っても洗ってはダメでした。また、グリーンティーに牛乳を入れて飲んでたこともとてもびっくりしました。初日から Anne には文化の違いに驚かされるばかりでしたが、最初の日に優しく家に迎え入れてくれたことや私たちの誕生日を祝ってくれたこと、12日間一緒に過ごした日々は私たちにとって忘れられない宝物になりました。ありがとうございました。

私たちがお世話になった Tracey は、とびっきり明るく、優しい人でした。

初日、Tracey の家に着き、重いスーツケースを運んでもらった時に私たちは

「Sorry... Thank you.」と言いました。すると Tracey は「The rule of this house is not to say sorry!!」と笑いながら教えてくれ、緊張していた私たちを和ませてくれました。用意してくれたお部屋はホテルのように可愛らしく、生活に支障がないように色々なものを準備してくれて、Tracey の気遣いを感じ、ホームステイでの不安が早くも期待と楽しみに変わりました。

また2週間の生活の中で、Tracey はとてもフレンドリーでたくさんの人から好かれているということが分かりました。Tracey は、散歩の途中やお店の中などで通りすがりの人や子どもたち、レジの人にも臆することなく話しかけていたので「Friend?」と聞いたら、Tracey は「No!!」と言ったので本当に驚きました。友だちでなくても積極的に明るく話しかけ、相手の話を真剣に聞く Tracey を見て、私たちは感動しました。またそんな Tracey だからこそ、相手の人も笑顔で答えてくれて、友だちが増えるのだなあと思いました。

そして、私たちが心配なことや不安なことを話したら必ずハグをして励まし、気にかけてくれました。料理もすごく美味しく、毎食たくさん食べました。

2週間はあっという間に過ぎ、お別れのときには悲しくて Tracey と私たち、3人で泣いてしま

いました。それぐらい毎日が楽しくて充実していました。

私たちは Tracey のお家にホームステイができ、本当に幸せだったと思います。
ありがとうございました！！



Sanjukta Sahu

鈴木 瑞菜、西山 萌

私たちがお世話になったのは、Sahu 家です。
イギリス人ではなく、インド人の家族でした。
家族構成は、母：Sanjukta、父：David、長女：Tara、
次女：Sara の4人と、今はドイツに行っている長男
が1人でした。毎日笑いの絶えない、とても明るい
家族でした。

David はわざわざ日本語の挨拶を調
べて、毎日使って話しかけてきてくれました。分か
らない単語があったときにも教えてくれたおかげで、スムーズに会話をすることができました。
Sara とは一緒にたくさんのゲームをしました。最初はルールがよく分からなかったけど、ゆっく
り分かりやすく説明してくれたので、楽しく遊ぶことができました。Sanjukta はイギリス料理だ
けでなくインド料理も作ってくれて、違った食文化を体験することができたし、どれもすごく美
味しかったです。Tara はいろんな国の言葉を勉強していると言っていました。今は英語のほかに、
フランス語とドイツ語が少し喋られるそうです。同い年とは思えないくらい大人っぽく、しっか
りしていて、妹の面倒をよくみていました。姉妹はとっても仲が良くて、毎日楽しそうに会話を
していたのが印象に残っています。

休みの日には Sara と映画を見に行ったり、みんなでお城や公園に行ったりしました。家族はみ
んなすごく優しく、私たちに親切に接してくれました。たくさん話してたくさん笑って、毎日
本当に楽しかったです！ ありがとう！！



僕たちは、今回のホームステイで Davey 家にお世話になりました。お父さん、お母さんと子供 2 人の 4 人家族です。2 人のやんちゃで元気な子ども、長男：サム、次男：ウィルと優しいお母さん：アナリース、時には厳しいお父さん：ジェイソンの 4 人です。サムとウィルは最初、人見知りなのかずっとゲームばかりであんまり喋ってくれなかったけれど、時間が経つにつれてどんだんなついてくれました。お母さんは日本について興味を持っていて、たくさん話しかけてくれて、毎日家に帰ると今日何をしたのか訪ね、出迎えてくれました。お父さんは見た目は怖いけど気さくで笑顔が絶えない人でした。お母さんが忙しいと家事を積極的にやって、こういうお父さんになりたいなと思えるような人でした。サムとウィルは仲良しだけど喧嘩もしました。その度にお父さんに怒られていて自分も小さい頃はこういう風に親を困らせていたのかと思いつつ、2 人の面倒を見ました。小さい弟が 2 人いるのは大変でしたが、おかげで楽しい時間が過ごせました。夕飯の時にみんなで映画を見て食後はボードゲームをやったりして盛り上がったのもいい思い出です。いつかまたイギリスに行きたいと心から思い、ホストファミリーもぜひまた来てくれと言ってくれました。たった 2 週間でしたが、普通に家族として接してくれて、引っ越したばかりで忙しいのに快く僕たちを受け入れてくれて本当に感謝しています。



私たちが今回お世話になったのは Aker さん家族で、母 Anna、父 Stephen、長女 Sophie、次女 Hollie、三女 Lauren の五人と、猫の Alfie、Wilson と、犬の Belle で構成されている家族でした。Aker さん一家は皆明るく、とても親切にしてくださいました。母 Anna さんは、「できるだけイギリスの伝統的な料理を作るわ」と言って、毎日たくさんのおいしい料理をごちそうしてく

れ、また、バスの乗り方を知らない私たちと、一緒にバスに乗って案内してくれたり、イギリスでの生活をサポートしてくれました。父 **Stephen** は、いつも私たちに優しくしてくれて、とても話しやすかったです。日本語にも興味をもち、「いただきます」や「ごちそうさまでした」を覚えて家族みんなで言ってくれたりもしました。長女の **Sophie** さんと次女の **Hollie** さんはロンドンで独り暮らしをしていて、一緒に過ごすことができたのは2日間だけでした。**Sophie** さんはとても優しく、いつもニコニコ笑っていて私たちを和ませてくれました。次女の **Hollie** さんはクールなイメージでしたが、私たちにたくさん話しかけてくれたり、色々教えてくれたりして嬉しかったです。三女の **Lauren** さんは、気遣いの出来る、ほんとうに優しくいい子でした。その上、気の利く子で、ジュースを作ってくれたり、ゲームによく誘ってくれました。

皆さんは私たちを温かく迎えてくれ、感謝をしてもしきれないほど親切にしてもらいました。とても楽しいファミリーとの思い出を、たくさん作ることが出来ました。13日間お世話になりました。本当にありがとう。



Shweta Denod

山本 瀬奈、河邊 ゆき野

私が今回お世話になったのは、**Walia** 家で、インド人の家族でした。家族構成は、父 **Nitesh**、母 **Shweta**、長女 **Nishika** の3人家族です。夫婦は30代で若く、**Nishika** は3歳でディズニーが大好きな女の子でした。

Nishika が起きている間は、家ではずっとディズニーか子供向け番組がついていて、その間は誰もニュースなどは見えていませんでした。私もディズニーやポップなキャラクターの番組は大好きだし、何より英語の勉強になると思ったので、**Nishika** と一緒に観ていることが多かったです。

Nitesh(父)はとても優しく面白いおっとりした人でした。そして、Shweta(母)が Nishika の相手をしている時は、Nitesh がご飯を作ったり、お皿を洗ったりと家事を積極的に行う人でもありました。

Shweta は何でも優しく教えてくれて、とてもかわいらしい小柄な人でした。それに料理がとても上手で、毎日の夕食は楽しみの一つになりました。見た目によらず辛いものが大好きで、何にでもとても辛いホットチリをかけて食べていました。2人は私たちが学校に行く時に「楽しんできて！」と笑顔で送り出してくれ、帰宅したら「今日はどうだった？」と気にかけてくれました。私たちが帰国する朝、手紙を渡したら、笑顔で抱きしめてくれた。「いつでもメールしていいからね」と優しく言ってくれました。

Walia 家で2週間過ごせて、本当に楽しかったと思っています！感謝でいっぱい！家族のように接してくれてありがとう！



私のホストファミリーは、ホストファーザーの Nitesh さんとホストマザーの Shweta さんと、そして3歳の娘の Nishika の3人家族でした。

バートン校で初めて対面した時、とても緊張しました。しかしホストファーザーが笑顔で自己紹介して握手をしてくれました。Nishika はホストファーザーの後ろに隠れて恥ずかしそうにしていますが、車に乗った途端にしゃべり始め、しばらく止まりませんでした。家に行くと、ホ

ストマザーが笑顔で出迎えてくれました。家の中は繊細な装飾品とか家族写真とかいろいろありました。泊まる部屋は広くて、ダブルベッドとシングルベッドがありました。夕食はとてもおいしかったです。お土産にインテリアステッカーとインテリアフックと紙ふうせんをあげました。ホストファミリーはとても喜んでくれて、Nishika は早速おもちゃで遊んでいました。猫がいると聞いていたので猫じゃらしをあげましたが、朝しか来ないと言われ、少し残念でした。

学校から帰ってきたら、ほぼ毎日温かいホットチョコレートを作ってくれました。休日は朝食を作ってくれたり、ホストファーザーの実家に行って母の日を祝ったり、お城へピクニックに行ったり、たくさんのことをしました。このままイギリスにいたいなと思っていました。

25日にカルチャーショーがあって、私の出番が近くなるにつれて、心臓の鼓動が速くなってきました。本番の前に先生に文の切れるところに斜線を引いてもらいました。そして大きな声でゆっくり読めと言われたので、本番は先生の言う通りをして、富士山と豊田についてをパワーポイントを使って発表しました。とても緊張しました。終わった後、ホストマザーが「良かったよ。」と言ってくれました。夕食会もとても楽しかったです。

ついに最後の日になってしまいました。ホストマザーと Nishika が見送ってくれました。イギリスに来て、たくさん分からないことがあったけど、ホストファミリーが気を遣ってくれて、なに不自由なく毎日を楽しく過ごすことができました。とても仲が良くて、とても優しいホストファミリーでした。とっても楽しかったです。ありがとう！



Skrípek

河野 秀真、下温湯 準平

私たちのステイ先は、父母と兄弟の4人と犬を飼っている家族のお宅でした。家族は明るくとても気さくな人ばかりで、楽しく過ごしました。バーミンガム空港からバスで学校に行き、ホストファミリーと対面しました。初めて外国へ行ったので、不安でしたが、ホストマザーと兄弟が笑顔で出迎えてくれたので、不安は解消しました。自動車に荷物を積むとき、兄弟が“*We'll help you.*”と言って手伝ってくれた時は、とてもうれしく思いました。家まで15分ほどの車内では、緊張のため、何を話していいのかわかりませんでした。ホストマザーが気遣って、いろいろと質問をしてくれましたが、“*Yes*”、“*No*”しか答えられませんでした。家に着くと、飛行機や時差のことがあり、疲れてすぐ眠ってしまいました。翌朝には“*Did you sleep well?*”と優しく声をかけてもらえ、積極的に英語を話さなくては、と決意しました。訪問先は、裏庭でサッカーのできる大きな庭で

した。兄弟はサッカー好きで、私たちと趣味が合いました。休日には、弟の J a m e s のサッカーの試合に連れて行ってもらえ、貴重な体験をしました。ホストファーザーはレストランのシェフで、よく笑い、きさくに話しかけてくれて、テレビを見ているときも、歴史について教えてくれました。母の日には、ホストファーザーの働いているレストランで、英国料理をごちそうになりました。親族が集まって、とても楽しいひと時でした。

2020年の東京オリンピックを見に来日するかもしれないと聞いたので、再会が楽しみです。



Howard Boswell

小澤 朱里、中垣 早貴

今回、私たちがお世話になった Boswel 家は、BSDC のある Buton upon Trent から車で1時間ほどの場所の、豊かな牧草地に囲まれた落ち着いた石造りの家に、馬と犬と猫と共に暮らしています。最初に馬がいると聞いた時は驚きましたが、さすがに3頭も飼っているとは知りませんでした。

ホストファーザーの Haward は BSDC の職員の方で、初めてのホームステイで緊張していた私たちに、気さくに人懐っこそうな笑顔で挨拶をして、毎朝学校に通勤がてら私たちを送ってくれました。その道中で、ここは〇〇という所だよ、ここは〇〇で有名なんだよ等々、色々教えてくれました。正直、車酔い気味だった私は話どころではありませんでしたが、それでも慣れてくるとむしろ登下校が楽しみに思えてくるほどたくさんのことを教えてくれました。私たちでも理解できるような簡単な英語で話してくれ、飼い猫の一匹が私にとっても懐いたのを見て、スーツケースに入れて連れていくかい？などと冗談を飛ばすような明るい人でした。

ホストマザーの Loretta は Haward とは少し違い、とても冷静に、かつ温かく受け入れてくれました。Haward の代わりに学校まで送ってくれた時も、あまり話しませんでした。こういふと、まるで冷徹な人間なのか、とってしまうかもしれませんが、実際は逆です。確かに口数は少なめですが、私たちに、要るものがあれば何でも言ってね、部屋は快適？寒ければ暖房の温度を好きに上げてね、といったようにとても細やかな心遣いをしてくれる、家庭的で素敵な奥さんでした。しかも、ただ良妻賢母なだけでなく、二回見学させてもらった仕事場ではバリバリのキャリアウーマンといった感じだったし、犬と一緒に戯れている時は大変リラックスしていました。

ホストブラザーというには語弊のあるほど歳が離れている Robert とは、ゆっくり話す時間があまりなかったのですが、それでもやはり温かく受け入れてくれました。彼は Alton Twers という遊園地で働いていて、毎晩帰ってくるとスウェット上下に iPad、という日本にもいそうな、やけに親近感を覚える面白い男性でした。

もう一人息子さんがいて、そちらは結婚してスコットランドに住んでいるとのことでしたが、滞在中も度々電話があり、こちらのご家族は本当に仲が良いなと感じました。息子さん2人も両親を尊敬しているようで、家庭には常に笑い声があふれていました。



Mike Larkin and Kulwinder Bola

山本 岩男、稲垣 宏行

マイク（男）とカルヴィンデル（女）がパートナーとして2人で生活している家庭でした。マイクは50代で職業は日本でいう児童福祉士のような仕事をするソーシャルワーカーでウェールズ出身、カルヴィンデルもソーシャルワーカーでインドのデリー出身です。2人には以前のパートナーとの間に子供がいて、彼らのことを当たり前のように話題にしていました。マイクには2人の息子がいて、1人は数学の教師をしており、もう1人はイタリアでインターンシップを終えて、現在アルバイトをしながら、求職中。カルヴィンデルの娘はロンドン近郊で勤務医として働いていました。2人と12日間過ごして一番感じたことは、仕事と趣味のバランスがとれていて、どちらも熱心に取り組んでいることです。2人ともソーシャルワーカーとして里親とともに生活する恵まれない環境の子供の支援、警察や学校との連携に従事していて、非常にやりがいを感じているようでした。一方趣味として2人とも旅行好きで昨年は2人で米国のインディアナポリスに行き、そこで暮らすカルヴィンデルの



家族と楽しい時を過ごしました。またカルヴィンデルは3月21日から甥が住むニューヨークに1人で出かけました。この9月には親類の結婚式に出席するために、メキシコのカンクンに行き、ビーチリゾートを楽しむつもりだそうです。マイクはさらにモーターバイクのモトクロスレースが趣味で3年前までローカルレースに参加していました。家のガレージにはヤマハの大型バイク、ヴェスパのスクーター、2人乗りの自転車が置かれていました。ぶどうを購入して自宅でワインも作っていました。

自分たちの価値観を大切に、それを自然に実現しているこの家庭は物質的な面以上に豊かであると実感しました。そして、この豊かさは彼らの努力とともに、英国社会の豊かさに起因するものに違いないと確信しました。

滞在中の当番日記

1日目：3月14日（土）

朝7:00に神田公園に集合し、家族や先生に見送られながら中部国際空港にバスで移動しました。バスの中では話したり寝たりして過ごしました。中部国際空港からフランクフルト空港までの12時間弱の間は、映画やゲーム、お昼寝をしたりしました。外国人のキャビンアテンダントさんが話される英語が少し聞き取れないところもあり不安を感じました。



そして長時間のフライトのためか少しフラフラしました。フランクフルト空港からバーミンガム空港までは1時間強かかりました。バーミンガム空港ではBSDCの職員さんと平田さんが迎えてくださり、学校までバスで移動しました。バスの中では軽快な音楽が流れていて外国だなんて感じました。また、窓から見える景色も煉瓦づくりの家や広大な芝生ばかりで本当にイギリスに来たんだと実感がわいてきました。BSDCについてとき敷地が広く、建物がきれいで驚きました。そして楽しみにしていたホストファミリーと初めて顔をみて話しました。イギリスに行く前から連絡を取り合っていたけれど、顔を見て話すのは初めてだったので緊張しました。ホストファミリーの家に帰って、家の中を案内していただき、夕飯を食べてやっとひと段落つくことができました。ホストファミリーにお土産を渡すととても喜んでくださったのは、とても嬉しかったです。(和田)

2日目：3月15日（日）

今日は、日曜日だったので最初から最後までのおんびりと過ごしていました。朝8時に私たちは起きたけれど、ホストファミリーは起きてこなくて、少しパニックを起こした状態から一日が始まりました。朝ご飯を食べて少し会話をしたあと、近くにあるたくさんのお店が並ぶところへ歩いて行きました。歩いている途中に、色々な建物の話をしてくれて、その建物の歴史について教えてくれました。日本では住宅街でこのようなものは見かけないため、とても驚きました。そして、スーパーに行きました。カートを含め、全てのものがものすごく大きくて、カラフルでした。また、ホストファミリーが先々に会う人に声をかけていて、とても仲の良い町だなと感じました。



今日はイギリスでは「母の日」だったので、家族みんなで集まって夜ご飯を食べました。夜ご飯は「ローストビーフ」と「ヨークシャープディング」でした。それだけで満腹でしたが、ケーキも出てきて、すごく豪華でした。テーブルでは食わず、映画を見ながらソファに座って食べたことに驚きました。そのあと、子どもたちと一緒に写真が撮れて嬉しかったです。3本目の映画で私たちは眠くなってしまい、部屋に戻って寝る準備をしました。すると、誰かがドアをノックしたので開けてみたら、さらに違うデザートを子どもたちが運んで来てくれました。満腹だったにも関わらず、とても美味しく、全て完食しました。素敵なホストファミリーと一日過ごせて楽しかったです。(細井、工藤)

3日目：3月16日（月）

今日は、交通機関を使って初めて学校に登校しました。ホストファミリーの家から少し歩いてバス停まで行き、バスに乗りバスステーションに降りた。そこから電車の駅まで歩き、電車に乗りました。電車の駅からバートン校までは歩いて行きました。歩いて学校に行くとき道に迷いそうになりました。家から学校までの距離が長かったです。



午前中は学校の説明を聞きました。バートン校がどんなふうになっているか分かりました。午後はバートン市街地を生徒自治会長のニコさんに案内してもらいました。学校帰りに色々な所に寄ったり、友達や家族へのお土産を買ったりするにはいいと思いました。

学校からホストファミリーの家に帰ったとき足がすごく痛くなりました。次の日に、筋肉痛になるかと思ったほどでした。

学校からホストファミリーの家に帰ったとき足がすごく痛くなりました。次の日に、筋肉痛になるかと思ったほどでした。

夜ご飯になるまでホストファミリーの Sara と色々なゲームをして遊びました。数学のゲーム、人生ゲームのようなスゴロク、ジェンガなどたくさんの種類のゲームを持っていました。数学のゲームは表に書いてある絵に対しての質問が裏に書いてあって、そしてサイコロを転がして出た目の質問に答えるというものでした。Sara は質問を読んでくれたり、答えが分からなかったら丁寧に教えてくれました。

夜ご飯すごく美味しかったです。夜ご飯のあとホストマザーが出してくれたプディングを食べたおいしくて家でも作ってみたいと思いました。(鈴木、西山)

4日目：3月17日（火）

生活もだいぶ落ち着いてきて家事や朝食の準備を多少は自分でやれるようになってきました。イギリスに来て初めてバスを使いました。初めて公共交通機関を使うということでお母さんがバス停まで来て運転手に話をしてくれた。日本とは仕組みが違い戸惑いましたが、運転手が優しく教えてくれました。そのおかげで無事BSDCにつくことができました。

午前中はBSDCの先生とイギリスの主要な歴史を学びました。日本の歴史の授業で聞いたような単語も出てきてわかりやすかったです。余った時間で今のイギリスの政治の話を書きましたが、

難しくよくわからなかったです。昼食は校内のカフェでとり、生徒会の昨日と同じ人と話しながら食べました。昨日よりは英語が話せていると思いました。

午後はBSDCから街を歩きながら国立醸造博物館へ行き、バートンアポイントメントがなぜ醸造で有名なのかと醸造の歴史を教えていただいた。でも専門用語が多くあまり理解できなかった。まだお酒を飲める年ではないので少し残念でした。施設を案内してくれた人も残念そうでした。バスが来るまで時間があつたので近くのショッピングセンターで買い物をしました。

帰りのバスでは運転手が自宅の目の前に停まってくれました。家に帰ってから夕飯をとり、ホストファミリーとボーリングへ行きました。自分は最下位だったが、ホストファミリーとだいぶ仲良くなれました。長男のサムは昨日体調を崩していましたが、何もなかったのように元気でよかったです。(岡田)



5日目：3月18日（水）

この日の朝はシリアルとパンケーキを食べました。イギリスのパンケーキはとても薄くて、日本で言うクレープのような感じでした。そこに砂糖やフルーツ、はちみつ、ジャムなどをのせ、巻いて食べました。レモン汁を巻く前にかけるのが伝統的な食べ方と言っていました。とてもおいしかったです。

そのあとは、ロスリントン林業センターでの野外活動でした。午前中はサバイバルゲームやウォーキング、遊具などで遊びました。サバイバルゲームでは、チームを組み、皆と協力しながら体を動かし楽しみました。遊具も初めての仕掛けがたくさんあって面白かったです。ほかにも、頭や感覚を使うゲームもありました。お昼ご飯は皆と会話をしながらサンドウィッチとクリスプスとフルーツを食べました。午後はサイクリングと、タイヤを使った遊びをしました。サイクリングは結構道が険しくて大変でした。先頭のインストラクターのお姉さんがもう一周と言ったときは笑ってしまいました。タイヤの遊びは、頭とチームワークを必要とし大変でしたが、最後クリアしたときの達成感がすごかったです。協力しながら遊ぶことが多かったので、今日一日を通

して、皆とより友好を深めるが出来たと思います。

それと、これはロスリントンにいるときだけでなく、イギリスにいる間ずっと思っていたのですが、日本に比べてとても土地が広く、緑が多いなと感じました。咲いている花や植物は見ていて心が落ち着きました。イギリスに優しい人が多いのは、そういったことも関係しているのかなとも思いました。

帰った後は、ホストマザーの作ったおいしいシチューを食べ、日本についてたくさん会話をし、**Lauren** と映画を見て寝ました。今日も一日楽しく幸せでした。(松岡)



6日目：3月19日（木）

今日はバスで1時間ほどかけてRSC(ロイヤルシェイクスピアカンパニー)のシアターセンターとシェイクスピアの博物館とエリザベスタウンハウスに訪問しました。

RSCでは、当時俳優さんたちが舞台上で実際に着用した衣装や迫力ある大きな舞台や、とても美しい町並みを眺められる展望台など、素晴らしい場所でした。その後、**afternoon tea** で、スコーンと紅茶をいただきました。本場で食べたスコーンはとてもおいしく、その場所の雰囲気も本当に良かったです。

次のシェイクスピアの生家&博物館は、とても歴史を感じるところでした。”**To be, or not to be.**”シェイクスピアの有名な言葉。シェイクスピアは元々俳優で、そして次第に有名な作家として名が広まった というのを初めて知りました。勉強になることがたくさんある場所でした。

次のエリザベスタウンハウスでは、当時のままの物がある歴史ある建造物なのだと実感しました。特に当時からそのままだという壁が印象的でした。

その後は少し買い物をする時間があって、お土産を買ったり写真を撮ったりして、とても楽しむことができました。

今日は、日本では決して味わうことのできない多くのことを学べた特別な日でした。充実した一日で、とても楽しく過ごせた時間だった。(山本)



7日目：3月20日（金）

僕たちは20日にBSDCにてランチ及びアフタヌーンティーの調理実習とテーブルセッティングの講習を現地の生徒達と先生とともに行いました。BSDCには生徒が経営しているレストランがあります。そのことに驚き、生徒主体の学校なのだと実感しました。

まず僕たちは2つのチームに分かれました。片方が先に料理、もう一方がテーブルセッティングという形で僕のグループは先に調理をすることになりました。エプロンを着て厨房に入ると、いきなりメンバーを散り散りにされて、それぞれに課題が出されました。それぞれにBSDCの調理を専攻している生徒か先生が付き添いマンツーマンで行いました。僕が担当したのはシュークリームで、生地作りから中のクリームの作り方など最初はただでさえ難しいのにそれを英語で説明されるとなると本当にできるかどうか心配でしたが、とても丁寧に教えてくれてあまり困ることもなく料理することができました。後半のテーブルセッティングは、ナイフやフォークの置き方など今までに経験したことのない新鮮なものでした、

すべての準備が終わり、食事をする直前、派遣団のメンバーが日本食を紹介しました。発表が終わった後食事中に近くにいたBSDCの生徒に日本食について尋ねてみると、いくつか日本食を知っていたらしいが作り方がわからなかったと言って、今回の発表が役に立ちそうだと言っていました。一日を通して良い食文化交流になったと思います。(河野)



8日目：3月21日（土）

今回の研修ですごく楽しみにしていたロンドンへ行きました。ロンドンまではバスで約3時間かかるので、この日の集合は早朝でした。ロンドンに着いたらまず大英博物館へ行きました。博物館にはたくさんの外国人観光客がいて、日本人の観光客も多かったです。この辺りはスリが多いと聞いていたので、かばんをコートの中に入れて厳重に備えていました。博物館は広くてあまり見ることが出来ませんでしたが、歴史のある貴重な展示物が並んでいました。昼食は館内に売っていたサンドウィッチとマフィンを食べて、帰りにお土産を買いました。その後はビッグベン・ロンドンアイ・バッキンガム宮殿を散策しました。先生の説明を聞いていろいろ学び、たくさんの写真を撮ることができました。テレビや写真でよく目にする光景を直接観ることができ、想像していたより大きく感動しました。最後にハロッズで買いものをしました。ハロッズは高級なブランド店であり、売られている一つひとつの商品の値段に驚いたが、自分が欲しかった商品を見つけ、思わず購入してしまいました。ハロッズでの買い物が終わった後、バスまでしばらく歩きました。この日だけで相当長い距離を歩いて疲れましたが、有名な観光スポットをたくさんまわり非常に楽しかった。欲しかった物もたくさん購入できたし、すごく充実した一日でした。また機会があれば一日だけでなく、もっと長くロンドン観光をしたいと思いました。（小澤）



9日目：3月22日（日）

この日はホストファミリーと自由に過ごす日でした。私があまりお土産を買っていなかったの
で、朝は学校周辺で買い物をしました。買い物が終わった後は、ホストファミリーと一緒にリッ
チフィールド大聖堂という所へ行きました。この聖堂はプロテスタントの教会で、他の教会に比
べて金などの装飾が少なく、シンプルな造りだそうです。私はこのような教会や古城などに興味
があり、この聖堂の中に入った瞬間から感動の連続でした。写真でしか見たことのない高い天井、
細かな装飾、なにもかもが綺麗で一人で見入っていました。蝋燭の立っている聖人の祀られてい
る所は一際目立ち、金色をしていたり、たくさんの英文で出来事などが書かれていました。私は
まだあまり英語ができないので、全然意味が分かりませんでした。もしまたイギリスに行くこと
があれば、この聖堂に来て、もう一度楽しみたいと思いました。この日は、マーティンさんも一
緒で、いろいろ説明をしてくれていたのですが、それより自分の見たいところをフラフラと見て
しまっていて、マーティンさんには迷惑をかけてしまったと思っています。この後は、ウォータ
ーフロートという所へ行きました。そこにはたくさんの船があり、船で生活している人もいと
聞きました。この日の夕食はイングリッシュブレックファーストでした。イギリスの伝統的な朝
ごはんだそうです。本当は朝食食べる予定でしたが、私達がすでに朝ごはんを食べてしまっ
たので、夕食となってしまいました。トースト、ソーセージ、目玉焼き、ベーコンなどがありま
した。なんというか、朝食兼昼食という感じでした。イギリスでは日曜日はお昼くらいに起きて、
イングリッシュブレックファーストを食べてゆっくりとするそうです。(内田)



10日目：3月23日（月）

今日は Cadbury World というチョコレート工場に行きました。行きのバスではみんな疲れていたが、着いた瞬間テンションが上がりました。初めに、チョコレートはどのようにできているのかや、Cadbury の工場はどのようなきっかけでできたのかを学びました。実際にその時の時代に生きていたような服装をした人たちが説明をしてくれたので、とても面白かったです。そのあとは、4D を体験したり、みんなで写真を撮ったり、実際にチョコレートも食べました。また、車の乗り物に乗ってチョコレートの世界をしてみるアトラクションがあり、それもとても楽しくて、印象に残っています。お店でもたくさんチョコレートを買いました。イギリスのチョコレートはすごく美味しくて、日本にはない工夫がされているものが多く、とても甘いです。

学校に到着して私たちはモールへ行きました。イギリスで幅広い年齢の方々に人気の安い服がたくさん売っている PRIMARK というお店に行きました。家に帰ったあとも、ホストファミリーがスーパーに連れて行ってきて、お土産を買うことができました。今日の夜ご飯は私たちも手伝い、一緒に作りました。イギリスではたくさん食べられるチップスの作り方を教えてくれました。私たちは指示に従いながら慎重に頑張っていたのですが、隣でホストファミリーは手早く形も完璧に作っていて、さすがだなと感じました。できたご飯はとても美味しくて、ホストファミリーもたくさん褒めてくれました。（細井、工藤）



11日目：3月24日（火）

今日はクリエイティブ・メディア・ワークショップというデザインや写真撮影などに焦点を当てた集中授業を受けました。現地の生徒と向かい合っ、お互いの顔の絵を描きました。一筆書きで描くのはすごく難しく、おかしな絵になってしまいました。先生は絵が下手でも、絵が下手、描けないという心をまず捨てるのが大事。そこから始まる。というようなことを言っていたと思います。最初は下手だし、恥ずかしいから見られたくないなあと思っていたけど、先生の言葉を聞いて、考え直して絵を描いてみたら、少し自信が持てるようになりました。私の学校では、先生が何か質問してもシーンとしてしまうことがよくあるけれど、イギリスの生徒はすごく元気よくどんどん発言するので、積極性が違うなと感じました。また、先生はたくさん生徒を褒めていたので、イギリスでは、



褒めて子供を伸ばすのかなと思いました。一人の子がイギリスの生徒に平仮名、片仮名、漢字（当て字）で名前を書いてあげたら、すごく喜んでいました。他の生徒もスマートフォンで日本語を調べて「おはよう」や「ありがとう」などの言葉を練習していました。インクを使ったロールペイントは、すごく濃くなってしまったり、逆に薄くなってしまったり、調整が大変だった。鉛筆をねかせて書いた時と、立てて書いたときの線の細かい太さの違いなども結構しっかり出て、面白いなと思いました。古い構造のカメラで写真撮影もしたけど、うまくピントを合わせることができなくて難しかったです。生徒とも交流ができて、とても楽しい一日でした。（鈴木、西山）

12日目：3月25日（水）

今日はイギリスで本格的に活動をする最後の日になりました。それに加えてなんと今日はホストファミリーやBSDCの先生方に英語で発表するカルチャーショーがあるのです。どのメンバーもこの派遣でおそらく一番緊張したのではないのでしょうか。僕はとても緊張していました。

僕たちの発表グループはこの日まで使用するスライドが完成しておらず、午前中の準備の時間にがんばって作っていました。しかしスライドは完成せず、全体のリハーサルも参加せず、その後も時間を見つけては作っていました。

昼食後、みんなでブリューハウスアートセンターで行われるダンスを鑑賞しに行きました。BSDCからは近い場所にあり、歩いて行きました。

派遣も今日で12日目、みんなかなり疲れがたまっていたようで暗いダンス会場で睡魔と戦っていた人が多かったように思います。鑑賞の後に少し時間がありましたので、カルチャーショーの準備や最後のリハーサルが行われました。みんなの緊張が高まっていきました。

カルチャーショーの前の履修証明書授与式でみんな証明書を受けました。無事に全ての課程を修了した、そう思いました。

いよいよカルチャーショー本番です。どこの発表グループも本番には間に合い、しっかりと発表することができました。最後に、ソーラン節が披露され、会場は大盛り上がりの中カルチャーショーは終わりました。その後、ホストファミリーと最後の夕食を楽しみました。会場には昨日作ったみんなの絵や写真が飾られ、みなそれぞれ最後の夜を過ごしていました。

（安藤）



13、14日目：3月26日（木）、27日（金）

イギリスで過ごす最後の朝を迎えて、いつもなら楽しいはずの朝食の時間がさみしく感じてしまいました。朝食後、BSDC までホストファミリーのお母さんが車で送ってくれました。最後の最後までお世話してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。ホストファミリーと過ごした二週間は毎日がとても楽しく、日本に戻らずこのままイギリスに残りたいと思ってしまうほどでした。私は一生忘れられない素敵な思い出を作ることができました。ホストファミリーのお母さんが別れ間際に私を抱きしめて「気をつけて帰るのよ」と涙ぐみながら言ってくれたときは、日本に戻ることを実感させられとても悲しくなり涙が出てしまいました。

行きと同様長いフライトでしたが、日本に帰りたくないという気持ちからか、私は行きよりも短いフライトに感じてしまいました。

イギリスを出発してから2回の乗り換えや入国審査を経て約23時間後、ようやく豊田市に到着しました。派遣生それぞれの家族が出迎えていてくれました。家族の顔を見たらイギリスを離れて寂しい気持ちから無事に研修を終えることができ安心した気持ちになりました。

今回の研修は終わりましたが、2週間行動を共にしたみんなと出会えたことは私にとってとてもいい思い出になりました。今後またみんなで集まれる機会があればいいなと思います。（高野）



レポ ー ト

目的：イギリスの交通や建物の特徴を観察し、日本との違いを知ること

【交通】

ラウンドアバウト：環状交差点のことで、イギリスなど欧州諸国で多く導入されています
一定の交通量に対しては効率のよい流れを作ることができます

また、信号機がないところが多かったです

ベリーシャビーコン：横断歩道があることを示すランプのことで、

白黒模様のポールに黄色やオレンジ色の球体状の点滅するランプがついています

特に夜間の横断歩道の認識に有効です

速度の単位：イギリスではマイル毎時（m p h）という単位が、速度の単位として使われています

日本の感覚でスピードメーターを見ると表示が遅く見えてしまいます

自動車に関する意識：イギリス人は運転することを楽しんでいるようです

そのせいか、大多数の自動車がマニュアル車でした

【建物】

イギリスでは古い建物が多く残っています。その多くがレンガや石で作られていて独特な景観を形成しています。



私は食文化について考えました。これはとても分かりやすいことですが、人やテレビなどで聞くのと、自分で体験するのではやはり違うと思うので、このテーマにしました。主に4つの点を考えました。

初めに日本でのイギリスの食事に対するイメージです。食事がおいしくない、これはイギリスに行く前に聞いたことです。でも実際はそうでもありませんでした。イギリスで実際に食べたものはどれもおいしく、ホストマザーの料理もおいしいと思いました。しかし、料理ではなく野菜がおいしくないことが分かりました。例えば、レタスです。イギリスのレタスは辛いと感じました。サラダにしたら辛くて私にはとても食べられませんでした。しかし、りんごなどのフルーツはおいしかったので不思議だと思いました。

2つ目はイギリスの食事のスタイルです。私達のホストファミリーの家での食事はバイキング形式で、自分の食べたいものを食べられる分だけとるという感じでした。日本でも、このような家は多いのではないかと思います。しかし、BSDC内の食堂では、食堂の方がお皿に料理を盛ってくれました。盛ってくれる量がとても多かったので、イギリス人はたくさん食べるのだろうと思いました。



3つ目はイギリス人の食事に対する考え方です。私達のホストマザーはよく、「食事は楽しむものだから、残してもいい」と言いました。よく食べ残しをしていたり、まだ食べられる(であろう)食材を捨てていました。これには驚きました。日本ではもったいないという考えがあり、あまり食べ残しをすることは無いと思います。イギリスでは「もったいなく楽しむ」であることが分かり少し寂しく思い、恵まれすぎているのかなとも思いました。また、日本のもったいないという考えは大事なものだと思えました。他の国にもこの日本の考えは広めるべきだと思えました。

最後に食器類についてです。イギリスの食器類は汚いと感じることがありました。私達の家の食器は使うのをためらうほどでした。あまり気分のいいものではないと思ったので、私達は自分達で食器を洗って使っていました。このことから、日本人はきれい好きだと改めて思いました。

たった2週間でしたが、食文化の違いにはとても驚きました。違いは今までの歴史が関係しているのではないかと思います。戦時中の経験、経済成長期の経験などの違いから来ているのかもしれない。文化の違いは体験してみてもわかることだと思います。この体験から、文化の違いを理解することの難しさも学ぶことができました。他の文化を広く受け入れ、自分自身の視野を広げていけたらいいと思えました。



バイキングのような食事



食堂で盛られる食事

引越しの話

岡田 溪冴

BSDCに初めて行く日の車の中で、僕はホストファミリーに聞かれたある質問にうまく答えることができませんでした。その日は初めて学校へ行くということで、ホストマザーが車でBSDCまで送っていつてくれることになっていました。その道中で家の引っ越しについての話になりました。

たまたま僕たちがホームステイする2、3週間前に引っ越したばかりらしく、古い方の家の引越しの手続きなどがまだあったのでそれについて話していたら日本ではどうなのかと聞かれました。

なぜ質問にうまく答えられなかったかという、日本では引っ越しというとアパートなどに引っ越すのはのぞいて、だいたい新築の家に住むからです。しかしイギリスでは家は勝手に壊してはダメで、許可なく変えられるのは内装だけで古くに建てられたという歴史的価値と街の景観を大事にしているからだそうです。家具もかなり古いものが普通に使われていました。日本ではどうでしょうか。京都などの一部を除いて最近の家はほとんど地震や台風などの災害対策でみんなバラバラな見た目です。それはそれでいいと思いますが、やはり街を歩いていて統一感があっていいなと感じることは多々ありました。首都であるロンドンでも同じように変に目立つ建物はなくて落ち着いた感じがありました。

またイギリスの引っ越しは自分が新居に引っ越すのと自分の元の家誰かが引っ越してくるのを同時にやるそうです。なので、引っ越しの日には荷物を全部出して入れてと大忙しらしいです。日本ではありえないことだなと思いました。

イギリスの家というのだいたい大きな庭がついてきます。また芝生の広い公園をよく見かけました。土地は日本より狭いですが山が少ないので広々と使えることを実感しました。日本の公園はせまくて砂が多いと思います。遊具を置いたらほとんどスペースがなくなってしまいます。しかもボール使用禁止の公園も最近よく見ます。なぜイギリスでサッカーが人気なのかかわかった気がしました。



日本との比較で感じたこと

小澤 朱里

1 イギリスの食について

イギリスの朝食では、毎日シリアルでした。夕食は、主食がポテトで毎日食べます。他にパスタやライスが主食の時もあるが、ライスは日本の白米に比べ細長かったです。聞けば『ジャマイカ米』とのこと。私はそのお米より日本のお米の方がおいしいと感じました。ビーフやチキンなどの料理はおいしかったですが、少し味が濃いように思えました。ホストファミリーの家では、夕食にほぼ毎日チーズが出ていました。

ほとんどの食事スタイルは、日本が一品一様にお皿に盛りつけられることが多いのに対し、イギリスでは、幾種類もの料理を大きなお皿へ並べるスタイルでした。

また、日本のように、食事の始めと終わりに「いただきます」や「ごちそうさま」のあいさ

つをする習慣はなかったので、改めて日本人は食べ物に感謝の気持ちを表わす民族だと感じました。



2 イギリスの天気について

イギリスの朝は、ほぼ毎日雨が降っていました。出掛けたあと、傘をホストファミリーの家
に忘れて「しまった！」と思ったことがありましたが、昼になると雨が止んでいました。この
ことから、イギリスでは頻繁に小雨が降る国だと感じました。また朝は、辺り一面に霧が広が
っていて、前が見えませんでした。しかし、多少雨が降っていても、現地の方は、傘を使っ
ていなく大変驚きました。

またイギリスは、私が想像していたより寒くなかったです。厚めの上着にカイロを何個も持
って行きましたが、一日も出番はありませんでした。それどころか半袖を着た現地の人も多く
で、とても衝撃を受けました。イギリス人は日本人よりも体感温度が高いのかもしれないと思
いました。

3 Alton Towers に出向いて

私のホストファミリーが日曜日に、Alton Towers に連れて行ってくれました。Alton Towers
とは、イギリス最大のテーマパークです。ホストファミリーの家から約10分という近さにあ
った。

パーク内には大きなジェットコースターなどさまざまなアトラクションがあり、待ち時間が
ほとんどありませんでした。絶叫好きの私にとって、最高の時間を過ごすことが出来ました。
乗り物の調子が悪く、何回も止まっても大きなトラブルには至らず、何事もなかったように再
開していたのが印象的でした。私はゴンドラに乗ったとき、空中で2回も止まって怖かったで
す。また私が乗っていない時も何回も止まって、日本との大きな違いを感じました。イギリス
では日本のテーマパークと比べ、多少不具合があっても、問題にはしない認識ではないかと思
いました。



シェークスピア

河邊 ゆき野

3月19日の木曜日にRSCシアターセンター、シェークスピア生家と博物館を訪問しました。

RSCシアターセンターの中は広くて小さい噴水みたいなのかなど、肖像画とか、窓には色とりどりのステンドグラスがありました。一般のお客さんが入ることができない、大きな舞台に特別に見学することができました。舞台はまだ準備中で人の声は聞こえるけど、聞こえなくなると静寂に包まれました。不思議な空間でした。

アフタヌーンティーをして昼食のサンドウィッチを食べて、シェークスピアの生家に行きました。玄関の前に役者がいて、突然演技をし始めてびっくりしました。声の強弱と迫力に感動しました。家の中に入ると玄関、居間、食堂、シェークスピアの父親の仕事場が1階にあり、2階には寝室、シェークスピアの「誕生の部屋」、奥の間、台所と食料貯蔵室がありました。「誕生の部屋」は小さい車輪付きのベッドがあり、ほかにもゆりかごや玩具、洗い桶などがあり、当時の生活を再現していました。外に出てみると、役者がいて、「ロミオとジュリエット」を演じていました。ロマンチックで素敵でした。その役者と一緒に写真を撮ってもらいました。すごく嬉しかったです。

今まで歴史の人物に興味はなかったけど、シェークスピアについてたくさんことを学んだら、大変興味をもつことができました。もっと歴史のことを知りたいと思いました。貴重な体験ができて、本当によかったです。



食事

イギリスの料理はまずいとよく聞きますが、私はイギリスに行き実際に食べて、そんなのウソだと気付きました。日本の主食は米ですが、イギリスの主食はジャガイモでした。毎食チップスやジャガイモを蒸したものなど、ジャガイモを見ない日がありませんでした。毎日すごく美味しい食事でしたが、日本の食事に比べ、だいぶ高カロリーなメニューで量も多いので苦劳しました。あまりスープやサラダが出ないので、健康のためにも日本の和食を少し参考にしたほうがいいなと思いました。

くしゃみ

イギリスで私は何回かくしゃみをしました。すると必ず周りのイギリス人は **Bless you!!** と言ってくれました。日本の場合、くしゃみをしてても大体周りは無視をするのが普通だと思うので、なんでだろう?と思いました。

聞いてみるとヨーロッパでは「くしゃみをすると魂が抜けて悪魔が入り込む。」と言い伝えられているので「神のご加護を(悪魔が入り込みませんように)」という意味がある **Bless you!!** と声をかけてあげるようです。

このことを知り、私は優しい声かけをしてもらえたんだなあ嬉しくなりました。

交通・環境

私は2週間イギリスで過ごす中で、交通と環境は日本の方が整備されていると感じました。イギリス人は我が道を行く運転をしていて何回もヒヤヒヤしました。日本では狭い道があったらどちらかが止まって慎重に通りますが、イギリスではどっちも進むので驚きました。反対に日本はイギリスのラウンドアバウトを事故が少ないと聞くのもっと取り入れてと思いました。

またイギリスはゴミのポイ捨てが多く、せっかくの可愛らしい街並みが台無し!と思い、残念でした。ゴミ箱はたくさん設置してあったので、呼びかけが大事だと思いました。

短い間でも挙げはじめたらたくさんの違いが見つかり、面白かったです。日本とイギリス、お互いのプラス点をこれからも交流を増やし、知りながら補っていったらいいと思います。



僕の今回の派遣でテーマにしたのは街並みに潜んでいる日本との文化の違いです。今回の派遣が初めての海外で日本との違いをしっかりと感じたいと思いこのテーマにしました。思っていた通りたくさんの違いがありましたが今回紹介するのは2点あります。

まずはレンガ造りの建物です。BSDCの周辺やロンドンを歩き回ってみると一番感じたことが赤いレンガの建物がずっと石畳の道路沿いに続いている光景でした。イギリスでは引っ越しするときにあまり家を壊さずそのままにすることが多らしく、昔の建物の景観がそのまま残るそうです。日本とは違う昔の建物を残すという精神に感動しました。



次に芝生の多さです。レンガの建物と共に目についたのが芝生で、日本で公園と呼ばれるような場所にはほとんどきれいな芝生が生えていて、子供たちが楽しそうに走り回る姿がありました。



昔の建物と清々しい自然があるイギリスは、街を歩くだけでもいろいろと学ぶことが多かったです。

今回の英国訪問を前に、私は個人テーマとして「英会話力をつける」を設定しました。その理由は、私は人と会話をするのは好きですが、英語で話すとなると、なかなか英語が出て来ないからです。話す話題があっても、それを英語でどう表現すればよいのかわからなくなることが多々あります。それで、英国訪問をいい機会として、考えている内容を少しでも英語に変えられる力をつけたいと思いました。友達にどうしたらよいのか尋ねてみたところ、積極的にコミュニケーションをとることが大事だと言われました。先生からは、毎日毎日英語で表現することが大事だと教わりました。先生は書かなければ話せないから、書く練習をするといいと言われました。

英国について、学校で初めてホストファミリーの皆さんと対面しました。皆さんが私とルームメイトのことを気遣っている話しかけたり、質問してくれたりしました。「あれがダービーシャーのフットボールスタジアムだよ」、「疲れていますか？」などです。

しかし、私は“Yes,”“No”“Oh!!”と反応できるだけで、会話が成立しませんでした。翌朝、“Did you sleep well?”とホストマザーが優しく声をかけてくださり、もっと英語を使わなくては、と決意しました。ルームメイトと学校の帰りのバスで、「昨日はあまりしゃべれなかったから、今日は学校であったこと、したことを話そうぜ」と話しながら帰りました。私たちが話そうとすると一生懸命聞いてくださり、話す意欲がわきました。徐々に、ホストファミリーとコミュニケーションが取れるようになりました。

しかし、外での英会話はとても難しかったです。まず、速くて聞き取ることが大変でした。学生さんと食事を一緒にしましたが、話が続き、気まずい雰囲気が続いたことがありました。質問しても、返ってきた答えがわからないし、質問されても速くて、何を聞かれているのか全くわからないこともありました。会話をしたい意欲はあっても、聞き取れなく、自分の英語力が未熟だと思い知らされました。そして、話そうとしても「この英語であっているのかな」と臆病になる自分がいました。

この体験から私には、「リスニング力」と「英語で話す力」が未熟であることに気づかされました。しかし、勇気をもって英語を使ってみて、その英語が通じたときの嬉しさは今でも忘れません。逆に通じなかった時は、なぜ通じなかったのかを考えることで、少しずつですが、英語が向上している気がしました。本屋で読みやすそうな英語の本を買い、知識を身につけたりもしました。また、できない悔しさが、もっと上達させたい、という学習意欲に結び付いた気がします。この英国訪問という貴重な体験を今後の英語の勉強だけでなく、他のことにも活かしたいと思います。もっと多くの外国を訪れて、英語で会話したいという気持ちがより一層膨らんだことは確かです。



1 あいさつ・マナー

イギリス人はよく”thank you”と言います。バスでの乗り降りやレジなど、いろんな場面で”thank you”という言葉がたくさん聞きました。日本では黙ってお金を払う人が多く、そういう場面で「ありがとう」という言葉はあまり聞かないので少し驚きました。でも、自分もバスやレジで”thank you”と言ってみると、相手も笑顔で挨拶も返してくれたのですごく気持ちがよかったです。また、お店などでドアを開けて通るのを待ってくれる人がたくさんいました。優しくて親切な人が多い国だと思いました。

2 食文化

日本料理は調理する時に味付けを済ませるので、何もかけたりせずにそのまま食べることが多いと思います。食材本来の食感や味を大切にしたい優しい味付けであるというのも特徴です。しかし、イギリス料理はこれと大きく異なっていました。お家で作ってきたイギリス料理はほとんど味付けされておらず、後からソースなどをかけて自分好みの味にして食べるのが一般的でした。家族とご飯を食べた時



にソースを少ししかかけなかったら、「ソースがたりないんじゃないの？もっとかけたら？」と言われたのをよく覚えています。また、野菜は食感がなくなるほど茹でられていて、最初に食べた時は本当にびっくりしました。これも食に関する考え方の違いなのかなと思いました。

3 住んでいる人

イギリスは日本と同じ島国だけど、移民がとても多いと思いました。日本にもほかの国から来た人はいるけど、ほとんどはアジア系の人です。しかし、イギリスの学校や町ではアフリカ系の顔立ちの人をよく見かけたし、実際に私たちのホストファミリーもイギリス人ではなく、インドの人でした。タクシーの運転手さんはドイツから来たと言っていたので、国際色豊かでたくさんの国の文化が混ざり合っていると感じました。



4 学校

先生が生徒をよく褒めていたのはすごく印象に残っています。イギリスでは、褒めて子供を伸ばすのかなと思いました。生徒はすごく意欲があって、たくさん発言していました。私の学校では生徒が発言する機会はあまりないし、みんな失敗を恐れて発言しないので違いを実感しました。

私が日本とイギリスの文化の違いを感じたことは3つあります。

1つ目は食文化の違いについてです。イギリスではほぼ毎日3食必ずと言っていいほど「紅茶を飲む？」と聞かれました。とてもたくさんの種類の紅茶がイギリスにはあり、特に私はEarl Greyという種類の紅茶が気に入りました。すごくいい香りがし、とても飲みやすかったです。そしてイギリスではアフタヌーンティーという習慣があります。アフタヌーンティーでは、日本で抹茶を飲むときに和菓子を一緒に食べるのと同じように、紅茶と一緒にスコーンなどの伝統的なお菓子を食べます。私は実際に大学生の方々と一緒にスコーンを作らせていただくことができました。自分で作ったスコーンの味は格別でした。他にもサンドウィッチやスイーツなどがテーブルに並んでいてどの料理もとてもおいしかったです。

2つ目は日本に比べて古い建物が多いいことです。街を歩いていると、至る所に歴史的建造物が大切に残されていました。そしてそれらは、実際に今でも使われていてとても驚きました。今の日本はビルやマンションなどの新しい建物が多くなりつつあり歴史的建造物が少なくなっているのので、これからは日本も古い建物を保護していけるといいなと思いました。

3つ目は路線バスについてです。日本のバスはアナウンスや文字が表示され、誰もが分かりやすく利用できるようになっています。しかし、私が乗ったバスはアナウンスや文字表示が一切なく、バス停はありますがバス停ではないところでも降りることができました。地元以外の人間にとって分かりづらく、私は初日降りる場所を間違えるという失敗をしてしまいました。

2週間のイギリス派遣でしたが、さまざまな文化の違いを肌で感じる事ができたのは私にとって、とても貴重な経験でした。



ホストファミリーの家に着いて早々言われたことがあります。 Help yourself. つまりご自由にどうぞということでした。言われた時はあまり深く考えなかったのですが、その日からこの言葉は文字通り自由にしても良いということだということにはしばらくしてから気づいたのです。

私は、日本にいた時から個人テーマを「イギリスと日本との習慣の違い」にしようと考えていました。具体的に何にするかは考えていませんでしたが、初日にホストファザーから言われたこの一言で決定しました。文字通りの自由、つまり、何かしてほしいことがあったのならば、まず自分からその要望を伝えなければならないのです。

日本であれば、誰かお客様がいらしていたら、先回りしてあれこれ準備をします。必要だと思われるものは予め用意しておき、なるべくお客様に快適に過ごせるようにするのが日本流のおもてなしです。しかし、イギリスでは相手が自宅のようにくつろいでくれるようにすることこそおもてなしのようでした。例えば、洗濯物も洗ってほしければ、自分から「洗ってください」と言うので、最初はこの家の人たちは服を洗わないのだろうか、自分で言えばよいのか言ってくれるのを待つべきなのかで迷いましたが、自分から言う方が良いと気づいてからは、自分の要望はきちんと伝えることができるようになりました。

このように、気遣いの仕方も日本とはまるで違うことを、身をもって知りました。



私は、今回の派遣で初めてイギリスに行った。行ってみてイギリスに対して思っていたことが変わりましたし、日本とイギリスの違いを発見することもできました。

● イギリスのご飯はまずい？

イギリスのご飯はまずいと聞いていてそうなのかなと思っていたが、向こうで食べてみてすごく美味しいと思いました。なぜご飯がまずいと言われているか疑問に思いました。ご飯が美味しくて食べすぎそうでした。日本の味付けと違い香辛料をたくさん使った料理などがありました。



● 食文化

イギリスの朝はコーンフレークで、お昼ご飯のあとにアフタヌーンティーというのがありました。日本の朝は、ご飯かパンを主食としてそれにおかずと一緒に食べるし、アフタヌーンティーという文化はありません。



● ごみのポイ捨て

道路にたくさんのごみが捨てられていました。缶、ペットボトル、お菓子の袋などいろいろなごみがありました。道路にガムがたくさん張り付いていました。道路などに落ちているごみを拾っている人をよく見かけましたが、どういう人がごみを拾っているのかが気になりました。

● 日本とイギリスのバス

イギリスのバスは乗るバスによって、アナウンスやバス停の表示があるところとないところなどさまざまな種類がありました。日本と同じように降りる時はボタンを押しました。バスの中につり革が一つもありませんでした。座席の設置のしかたが異なり、通路が少し広く感じました。運賃は、乗車時に出し降りる時はお礼などを必ず言って降りていました。往復チケットなどは日本でいう定期券と同じもので、また電子カードも使用できました。バスの中で飲食している人を多く見かけ、携帯電話での通話もみんな普通にしていました。日本のバスの乗り方と違いとても驚きました。



イギリスの食べ物について

細井 里美

イギリスのご飯と日本のご飯は全然違う部分もありますが、少し似ている部分もあると思います。それぞれ特徴があり、イギリス料理は初めてだったため、毎食楽しみでした。

○日本料理とイギリス料理の違い

「イギリスの食べ物で何が有名？」と周りの人に聞くと、ほとんどの人が「フィッシュ&チップス」と答えると思います。私もそれを食べるのが楽しみの一つでした。

実際イギリスに行ってみて、車の中から町を見ていると、フィッシュ&チップスのお店をたくさん見かけました。このメニューを例に、日本とイギリスのご飯の違いをみてみ



たいと思います。

前頁にある写真は、私がイギリスで食べたフィッシュ&チップスの写真です。まず、一番上に見えるのがメインの魚です。イギリスでは魚がよく取れるため、魚を食べることが多いそうです。これは日本に似ていて、日本も魚を焼いて食べたり、生で食べたりすることが多いです。イギリスではお寿司屋さんもいくつかあるそうです。下にあるのはチップス、もしくはフライドポテトです。日本はほぼ毎食ご飯を食べますが、イギリスではジャガイモを食べることが多いのです。チップスに限らず、焼いたり潰したりいろいろな形で食べています。また、チップスはそれぞれの家庭やお店によって違います。私のホストファミリーは塩など一切使わずに作っていました。しかし、お店では塩と酢をかけていました。味も変わるだけでなく、食感も違って、食べていて面白かったです。

○クリームやカスタード大好き！



私がイギリスで驚いたことのひとつがデザートのことです。私のホストファミリーを含め、多くのイギリス人はクリームやカスタードが好きで、どんなデザートにもかけていました。左の写真はホストファミリーが作ってくれたアップルパイです。それにカスタードがたっぷりかかっています。ケーキにクリームをかけて食べた日もありました。最終日の学校で夜ご飯を食べるときも、デザートのコーナーにはクリームが準備されていました。甘いものが大好きなイギリス人はクリーム

やカスタードはデザートに欠かせないようです。

イギリスの伝統的料理と食事スタイル

松岡 奈那

家庭によっては違うかもしれませんが、私がホームステイした Aker さんのお家では、必ずみんなが帰宅し、そろってから食事を始め、終わりも、たとえ早く食べ終わっても誰かが食べ終わっていない場合、その人を待ってから席を立ち始めていました。私の家では最近全員揃わずに食べる人が多いので、このようにできるだけ皆で食事をとり、家族の時間を大切にする風習はとてもいいなと思いました。また、食べた後も、一時間くらい会話し続ける事もあり、楽しかったです。

また、カルチャーショーの後の会食時、飲みものを床に置く人を見て、これは日本じゃなかなかないことだと思い、少し驚きました。

Anna さんは私たちにたくさんの伝統料理を作ってくれました。最初食べた伝統料理は、ローストビーフとヨークシャーピングでした。温野菜とマッシュポテトをそれらと一緒に食べるのが一般的だそうです。ヨークシャーピングは甘くなくてももちもちした生地で、栄養素的には炭水化物ですが、あまり一度にたくさんは食べないそうです。



次に、朝ご飯にパンを食べました。一見普通のパンだと思いましたが、裏面には白い十字の生地が付いていて、Annaさんは、それはイースターの伝統なのだと教えてくれました。味はサクサクしていて、おいしいレーズンパンでした。



その日の晩ご飯は、ジャケットポテトでした。日本のジャガイモもよりひとまわり大きいポテトに十字の切れ込みを入れ、そこにバターとチーズをかけて食べました。

次に、翌朝、パンケーキを食べました。驚いたことにイギリスのパンケーキはとても薄いのです。クレープのようでした。中にはフルーツやはちみつ、砂糖など好きな具を入れ、巻いて食べるというスタイルでした。中の具にレモン汁を加えるのが伝統的だと言っていました。その夜はシチューを食べました。シチューには **dumpuling** という見た目は肉団子のようなものが入っていましたが、食べてみると味と食感は、小麦の生地を丸めたような感じでした



そのまた翌朝、crumpet というのを食べました。あまり甘くはありませんでしたが弾力のあるホットケーキのようでおいしかったです。見た目は所々に穴があいていて不思議でした。次の日の夜、fish&chips を食べました。Anna さんが、これはイギリスのファストフードだよと言い、驚きました。ずっと家庭料理だと思っていました。

私は今回、たくさんのイギリス料理について触れること、またそれらをたべることができました。Anna さんは趣味が料理を作ることと言っていて、作ってもらえた料理はどれもとてもおいしかったです。私はイギリスに来るまで、あまりイギリスの料理はおいしくないなどマイナスなことをよく耳にしましたが、そんなことは全くなくて、むしろ日本よりおいしい料理がたくさんありました。私はこの 13 日間、一度も体調を崩すことなく無事研修を終える事が出来ました。これは料理の影響が大きいのではないかと思います。とても感謝したいです。

初めての海外で見つけた日本との違い

山本 瀬奈

私は今回初めて海外に行きました。そこでは2週間という短い間でしたが、とてもたくさんの文化の違いに気付くことができました。

〈 洗濯機の位置 〉

まず、日本で洗濯機はどこに置くだろうか。大体の家庭は洗面所があり、そこに洗濯機を置いていることが多いと思います。しかし、イギリスではキッチンに洗濯機がありました。しかも、ドラム式の洗濯機が置かれていました。



〈 家庭のゴミは外へ 〉

イギリスの家に行くとき必ずと言っていいほど、家の外に番号が書かれたゴミ箱らしき物が置かれていました。番号は自分の住所の番号です。豊田市では一定の場所にみんなのゴミを集め、それをゴミ収集車が集めてくれるという方式ですが、イギリスでは各家庭の外に置かれているゴミ箱からゴミ収集車が集めているようでした。

〈 バス・車の運転 〉

私はもともと車に酔いやすいのですが、イギリスでは車に乗ったとたんに酔ってしまった。なぜなら、運転が驚くほど荒いからです。止まるときは常に急ブレーキで、ジェットコースターに乗っているような急発進でした。それともう一つ私が思ったことは、イギリスは道路がガタガタだということです。日本の乗り物がとてもスムーズで乗りやすいことがよくわかりました。



〈 バスの中での電話 〉

日本では、公共交通機関の中での電話は、周りの人への迷惑がかかるということで、基本的にしない人が多いです。しかし、イギリスのバスの中は大声で電話をしている人の姿を見るのが珍しいことではありませんでした。登下校時によく見かける場面でした。

〈 電車の中 〉

イギリスの電車は、まるで日本の新幹線のようにでした。日本の電車は内側に向かって座席があり、そしてつり革があるのが一般的です。しかし、イギリスでは新幹線のような配置の2人がけの椅子で、コンセントもあり、パソコンで仕事をしている人もよく見かけました。そして、一番驚いたのは、車内販売があったことです。

〈 イギリスの自動販売機 〉

イギリスでは自動販売機は全くないというわけではありませんが、ほとんど見かけませんでした。日本のようにどこかを歩けば必ずあるという状況ではなく、駅のような所にしか置かれていません。しかも値段が高いと感じました。チョコレートやスナック菓子を売っている自動販売機もありました。

〈 ゴミがたくさん 〉

イギリスの道端には、ゴミが大量に捨てられていました。日本の道などが常にきれいなものには、すごいことだと改めて思いました。しかし、一方でゴミ拾いをしている人も見かけました。ただ、それは住宅地の方だけで、中心街の方は驚くほどのゴミの量でした。その状況を見ると、日本は本当にきれいな国だと思います。



〈 トイレの様子 〉

トイレは、まず暖かい便座はありません。そして、当たり前ですが“音姫”のようなものもありません。しかし、手を洗う水は温水で、どちらかというと熱いほどでした。そして、日本でも馴染みのあるハンドドライヤーは、驚くほど威力が強くて、音も大きいので、初めて使用したときは驚いてしまいました。

〈 お店の店員 〉

私が思った印象は、皆とても優しいということ。まず、レジにいくと“Hi!”や“Hello!”と声をかけてくれます。そして、お金を渡すと必ず“Thank you!”と言い、品物を渡すときも“Thank you, bye bye!”などと、最後まで笑顔で接してくれます。とても気分がいいし、こちらまで笑顔になりました。イギリスでのショッピングはとても楽しかったです。

このようにイギリスと日本で、多くの違いを見つけることができました。同時に、共通点を見つけることもできました。違いを発見することによって、私がずっと日本で慣れてきた生活に感謝しなければいけないと思い知りました。それを感じる事ができたことが本当に良かったと思います。

イギリスと日本の違い

和田 彩果

日本とイギリスの間に文化の違いがあることは当たり前ですが、いざ例をあげようとするところがありません。そこで、私はイギリスと日本でどこが大きく異なるのかを調べてみました。イギリスと日本の違いはたくさんありましたが、ここでは大きく4つを取りあげます。

*食器の洗い方

私が一番衝撃的だったのはお皿の洗い方です。日本人は一般的に食洗機またはスポンジを使用し

て食器を洗います。しかし、私のホストファミリーは食洗機も使っていましたが、基本的にシンクに水をためて洗剤を入れ、食器をその中に入れてすすぐだけでした。また、ティーポットは洗ってはいけない。ホストマザーが言うには、ティーポットについての茶渋はお茶の味をよくするから洗ってはいけないそうです。

*バス

日本では前と真ん中にドアが2つあり、後ろから乗って前から出ます。また、支払いは最後に機械にお金を投入します。しかし、イギリスではドアは1つしかありません。そして支払いは最初にバスの運転手に行き先を告げ、直接お金を支払います。また、イギリスのバスは不便です。なぜなら、日本のようにバス停のたびにアナウンスが流れません。そのため、初めてバスに乗ったとき降りる場所が分からなくて困りました。

*スーパーマーケット

内装は日本と大差ありませんが、目につくのはレジです。日本は買い物かごをレジの台に置いてお会計をします。しかしBSDCの近くのスーパーでは違いました。下の写真のようにレジ台がベルトコンベアになっています。また、自分が買う商品を置いた後、次の人と混ざらないように三角柱のブロックを置きます。また、支払いの際にクレジットカードを使っている人が多かったようです。



*母の日

日本では母の日は5月の第2日曜日に祝いますが、イギリスでは3月の第4日曜日です。私たちのホームステイ2日目の3月22日はちょうど母の日(Mother's Day)でホストマザーの娘家族とランチに行きました。

派遣中に文化の違いによって戸惑うことが多々ありました。イギリスの長所と日本の長所をうまく取り込んで自分の知識の肥やしにするだけでなく、人に発信していきたいです。

Burton and South Derbyshire College について

稲垣 宏行 (引率教諭)

Burton and South Derbyshire College(BSDC)は、メインキャンパスが Burton upon Trent、南ダービーシャーキャンパスがダービーシャーに位置しています。開校60年を迎え、入門レベルから学位取得レベルまで500以上のコースを提供しており、5つのキャンパスで年間13,000人が学んでいます。

大学に進むための過程である Sixth Form、各種職業教育を行う Vocational Education、また大

学相当課程の **Higher Education** を併せ持っており、地元、地方、国レベルでの会社で必要な働き手を育成しています。様々な分野の授業を提供しており、学校が運営する校内のレストランで実習を行うことも出来ます。また、教育工学の面で施設が充実しており、各教室にはプロジェクター、スクリーンが設置されているため、マルチメディアを駆使した講義が可能になっています。特別教室も多く存在し、**Learner Hub** など、充実した学習環境で、学生たちは豊かな学びを実現しています。



派遣を終えて

今回、この派遣事業に参加するにあたって僕は英語が聞き取れるようになりたいという目標を立てて参加しました。そして事前の語学研修で基本的な英会話やイギリス独自の英語についての学習を行い派遣に備えました。

派遣当日、大勢の人に見送られ僕はイギリスに向けて出発しました。そして十数時間の移動を経て僕はイギリスに到着しました。長いフライトで僕は気分が悪くなってしまいましたが大きく体調を崩すことはなくほっとしました。

初日はBSDCにてホストファミリーと対面しました。事前にメールでのやり取りを通じてどのような人なのかは知っていましたが緊張しました。しかし、親しみやすいホストマザーであるとすぐにわかり安心しました。その日は対面後、家庭へと移動し早々に床に就きました。

派遣2日目、この日から本格的にイギリスでの生活が始まりました。とはいえこの日は日曜日でかつイギリスの母の日でしたのでホストファミリーと祖父母の家を訪ねました。

家では飲み物を飲みながらみんなで話をして楽しんでいました。でも僕にはほとんど何を言っているのかわかりませんでした。明日から学校への通学も始まるというのに本当に1週間大丈夫だろうか心配になりました。



家での昼食

派遣3日目、いよいよBSDCへの通学が始まりました。通学には一般の路線バスを利用します。外国の公共交通機関の利用は初めてのことでとても緊張しました。イギリスのバスには整理券、電子表示、アナウンスなど日本では当然バスについている機器がまったくなく、乗車したときに運転手と会話をして料金を払います。事前研修でこのことは知ってはいましたが実際に乗ってみると料金の支払いは案外簡単なのですが、降りるときが場合によってはとても難しいことがわかりました。電子表示、アナウンスがないので初めて乗る、特に途中下車するときいつ降りるのか、どこがバス停なのかまったくわからないのです。景色を見て目的のバス停の前で降りることを知らせなければなりません。しかし、学校は終点にありましたので、そのことは気にすることなく安心して通うことができました。

この日は全課程の説明やICカードの発行作業の後、昼食をとり学校があるバートン市街の散策に出かけました。中心部は古い教会をはじめとしたイギリスらしいレンガ造りの街並みでしたが少しそこを離れれば野鳥がたくさんいる自然豊かな川辺がありました。

派遣4日目、今日から本格的に授業が始まりました。この日はイギリスとダービーシャーの歴史や産業、政治について英語で授業を受けました。かなり本格的な授業で何を言っているのか自

分の英語以外の知識も使って想像しながら授業を受けました。午後からは、近所の国立醸造所に見学に行きましたが、解説に難解な英単語が乱立し本当に今回は何を言っているのかほとんどわかりませんでした。でもこうした専門用語ばかりの話を聞くこともひとつの経験かなと思いました。

派遣5日目、この日は校外のロスリントン林業センターでスポーツ・野外活動を行いました。この日はかなりしっかりと運動したのでとても疲れました。また昼食に皮をむいていないそのままのリンゴや洋ナシが入っていたことに驚きました。こちらではこのような皮付きの果物がサンドウィッチなどとともに売っているようです。

派遣6日目、シェイクスピアの生家があるストラットアポンエイボンという町を訪れました。シェイクスピアの生家はまだしっかりとしていたのですが同年代の別の家は大きく傾いており今にも壊れそうでした。また、この町はバートン以上に古い町並みが広い範囲にわたって残っており、なかなか見ごたえのある町でした。

派遣7日目、この日は学校でアフタヌーンティーの準備と料理を体験しました。机の準備には決まりがあり、そのように準備をしなければなりません。ナイフやスプーンの艶出し作業を一本一本していたことが印象的でした。

料理はお菓子やサンドウィッチを作りました。お菓子にはたくさんの砂糖や油、バターが使われていて、とても高カロリーでしたがとてもおいしかったです。

派遣8日目、この日はみんなが楽しみにしていたロンドン観光の日です。大英博物館やバッキンガム宮殿など有名な観光地を徒歩で巡りました。一日中歩いたのでとても疲れました。この派遣一番の運動だったと思います。

派遣9日目、今日は最後の日曜日でしたので、ホストファミリーとRFAミュージアムという航空博物館に行きました。ここは王立で規模も大きく入場は無料でした。以前から来てみたかったのでとてもうれしかったです。



RAF ミュージアム

派遣10日目、この日は映画チャーリーとチョコレート工場のモチーフとなったキャドバリーチョコレートの工場見学に来ました。歴史は古く、またイギリスでは有名な会社です。非常に子供の見学客が多く、チョコレートといえばキャドバリーといった意識が子供のころから植え付けられていくのだなと思いました。

派遣11日目、今日は久しぶりに学校での授業でした。美術や写真の授業でした。特に僕は写真部なので写真の授業は楽しみにしていました。今ではやることのない古い写真の技術を体験することができ、とてもうれしかったです。

派遣12日目、この日はそれぞれが担当するテーマに関するプレゼンテーションの日です。日本でも準備はしてきましたが結局、現地で本番直前まで製作が行われました。かなり日本で準備すること、またテーマごとにパソコンを持参する必要があると思いました。そんな状態でしたが、本番はよい結果に終わりました。ほっとしてホストファミリーと最後の夕食会を楽しみました。

はじめに立てた目標が少しは達成できたと思います。また、こうして全ての課程を修了し、日本へとみんな無事に帰って来られて本当によかったです。



学校のランチ

感想

内田 さくら

私はこの派遣でたくさんのことを学べたと思います。まずは、レポートにも書いた文化の違いです。最初は、食器の汚れや、お部屋に落ちているたくさんの猫の毛が気になってしまいました。しかし、何日が経過するにつれ、自主性や、自分から行動するという考え方が大事なんだと強く感じ、自分達で掃除をしたり、食器を洗ったりするようになりました。トマト缶とフランスパンを買って、ご飯を作ってみたりもしました。

ある日、ホストマザーに日本食を作ってくれと言われて、親子丼を作ったときにジャマイカ米がおいしくないことを発見しました。やっぱり日本のお米はおいしいと思いました。ホストマザーにはいろいろな所に連れて行ってもらいました。マザーズデーにはちょっとしたレストランに行きました。そこで、greentea with lemon と書いてあるレモン味のお茶を飲みました。意外と美味しかったです。でも、一番楽しかったのはリッチフィールド大聖堂です。とても印象に残っています。

初めてBSDCへの登校はバスに乗るにも戸惑いました。英語ばかり聞こえて不安になったりもしました。でも、今は英語が聞こえてこないことに、少し寂しいとも感じます。これが成長したということなのかは分かりませんが、今までよりも英語を好きになれたと思います。BSDC内はとにかく広くて迷子になりそうだと思います。

また、いろいろな所に視察に行きました。お酒の工場では、昔は水を飲むよりアルコールを飲むほうが安全だったと聞いたときは驚きました。お酒の歴史にはたくさんの人が関わっていたことを知りました。ロスリントン林業センターでは、なんとサバイバルゲームをしました。木のかげにかくれながら撃ったりしたけど、木が細かったから意味がなかったかもしれません。みんなとても楽しそうにしていました。アスレチックをまわりましたが、バランスロープが難しかった

です。植物を見たりして、自然に触れました。そのあとはマウンテンバイクに乗りました。マウンテンバイクに乗るのは初めてで、いつも乗っている自転車とは違って驚きました。山道っぽいところを何周もして疲れましたが、景色がきれいなところもあって楽しかったです。また、チームに分かれてゲームもしました。目隠しをして、司令の指示を聞いて移動をしたり、タイヤを移動させながらゴールを目指すというゲームでした。タイヤのゲームが楽しく、チームワークが大切だと感じました。久しぶりにあんなに外ではしゃぎました。アフタヌーンティーの勉強では、テーブルクロスの敷き方や、カップ、ソーサー、シルバーの並べ方を学び、自分達でアフタヌーンティー用のお菓子を作りました。お菓子作りは好きなので楽しかったです。そのあとアフタヌーンティーを楽しみました。並んでいたお菓子を全種類食べました。とてもおいしかったです。

ロンドン観光では初めに大英博物館に行きました。時間があまりなくて、古代エジプト、ギリシアあたりの展示しか見ることができませんでした。だけど、エジプトとギリシアだけでも見られて良かったです。壁画は見るだけで考えさせられました。昔の人はなぜこのようなものを残したのか、何のために作ったのか、今では誰も本当のことなんて分からないけれど、分かってしまったらそれはそれでつまらないのかもしれないとも思いました。まだ解読されていない文字もいつか解読されてしまうのかなど、いろいろ考えながら展示物を見ていました。もっとじっくり見たかったです。丸一日博物館でも飽きなかったかもしれません。ロンドンは見回りたいたところがたくさんありました。ビッグベン、バッキンガム宮殿、ウェストミンスター寺院など、日本とは違う建物の数々はとても楽しむことができました。ロンドンが私が思っていたより都会だという印象を受けました。タバコを吸う人が目立ち、タバコの吸殻がたくさん落ちていました。パトロンも同じような光景だったので、これには驚きました。

キャドバリーのチョコレート工場では、キャドバリーの歴史、今のチョコレートになるまでの歴史を見ました。チョコレートを作る工程では説明が全部英語だったけれど、映像もあったのである程度はわかりました。

カルチャーショーではソーラン節を踊りました。みんなの息があった掛け声、踊りはかっこよかったです。プレゼンテーションが成功して良かったです。そのあとの食事会も楽しめました。次の日にはひどい筋肉痛になってしまいました。本当にこの派遣は最後まで楽しかったです。ふと、帰りたくないと思いました。

たくさんの初めて見るものに驚きながら過ごした2週間でした。このような初めてする体験が人を成長させると思います。自分の意思を母語ではない英語で伝えることの難しさを改めて感じました。それを感じたおかげで、もっと英語話せるようになりたいと思いました。そのために、しなければならぬことはたくさんあります。挫折しそうになるけれど、それを乗り越えて英語が楽しめるようになりたいです。「もっと英語で会話ができるようになりたい。」になりたい自分がひとつ見つかりました。この経験が、自分のためになったのだろうか、誰かのために役立てられるのだろうか、と考えながら残りの高校生活を送ろうと思います。貴重な体験ができて本当に良かったです。ありがとうございました。

1 思ったこと感じたこと

僕はイギリスでたくさんの人としゃべり、仲良くなるということを目指して今回の派遣に参加しました。最初は緊張してホストファミリーともうまくしゃべることもできませんでした。ただホストファミリーが積極的に日本について聞いてきたり、自分たちの生活について教えてくれたりしているうちになじむことができました。生活に余裕ができてきて街を見渡すとたくさんの人が仲良くしているのが目につきました。イギリスで暮らしている中で人と人の交流が日本より多いと感じました。



派遣4日目、BSDCまで僕たちはバスで行くことになっていました。BSDC初日はホストファミリーに車で送ってもらったのでバスを使うのは今日が初めてでした。日本とは仕組みが全然違うので戸惑っているとバスの運転手の人が丁寧に教えてくれました。またその日の帰りに自分たちの降りる村で降りようとしたらバスをわざわざ家の前で止めてくれました。またBSDCのプログラムが終わって帰るまでの余った時間にショッピングセンターなどで買い物をしていると、レジでどの人も無言ではなく挨拶とちょっとした会話をしていました。このようにイギリスで時間をあまり気にしないのはこういう風に人との交流を大事にしているからなのだろうと思いました。日本では時間を気にすることが多くて、その代わりに人との交流の時間が少なくなってしまう気がしました。ほかにも電車や自分の学校でもスマホをいじっている人が多く、ほかの人としゃべっている人が少ないと思います。一方イギリスでは学校の中、街中のカフェ、通学中、どこに行ってもそれぞれ楽しそうに喋っていました。日本もこのようにもっとたくさんの人と会話するべきだと強く感じました。

2 ホストファミリーとの思い出

僕はホストファミリーを持つということは初めての経験でした。最初は何を話せばいいかわからずしゃべられずにいたときもありました。でも日本からのお土産を渡したり、一緒に近くの公園で遊んだりしているうちにいつの間にか馴染んでいました。おかげで毎日があっという間に過ぎました。ホストファミリーの子供のサムとウィルがときどき喧嘩してしまい、どう止



めようか悩んでしまうこともありました。お母さんは食べたことのないイギリス料理をたくさん作ってくれました。お父さんは日本にすごく興味を持っていて、景観のことや家のことなど自分の職業に関係していることを聞いてきました。到着翌日はイギリスでは母の日ということでホストファミリーのお母さんお父さんにあいさつに行きました。とてもほがらかな方々で歓迎してくれました。派遣9日目は国立航空博物館に行きました。そこでしか見られない過去の航空機を見たり、航空機の歴史について見てきました。海外ではあまり見ない日本語での説明もあり驚きました。第二次世界大戦で使用された「桜花」という世界で唯一残っている日本の機体もありました。サムもウィルも大喜びで博物館を見て回りました。2週間という短い期間でしたが、忙しい中僕たちを預かってくれて本当に感謝しています。お別れの時にイギリスのお菓子の作り方の本とヨークシャープディングのもとをもらいました。家に帰ったらぜひ作ってみたいと思いました。サムとウィルは学校を休んででも見送っていきたくて言ってくれました。でも結局学校に行かされました。みんな笑顔でまた会おうねと見送ってくれました。

3 最後に

海外での生活は、住み慣れた国から離れて言語や慣習の違いと大変なことも多いですが、違う国にいるからこそ学ぶことがたくさんありました。海外の良いところを見つける楽しさもあります。逆に海外に行って日本の良さに気づくこともありました。ホストファミリーや今回の派遣で出会った仲間とのつながりを大切に、これからも交流を続けたいと思います。また今回の貴重な体験を友達や後輩に伝えて、海外の魅力を知ってもらいより多くの人に関心を持ってもらえるよう努力したいと思います。



派遣を終えて

小澤 朱里

今回、私が派遣に参加しようと思った理由は、コミュニケーション能力の向上と、イギリスの文化や歴史を肌で感じ、日本にいただけでは分からない貴重な体験を現地で学びたいと考えたからです。派遣前は“自分にあった好きなことを見つけることを目標に、周りをよく見て行動しよう”とだけ思っていましたが、派遣後はグローバル化が著しい現代社会において、諸外国に目を向ける重要性を強く感じました。

<BSDC>

私たちはBurton South Derbyshire College(バートン&サウスダービーシャカレッジ)に約2週間通いました。私にとって、ここでの生活は初めての体験でした。林業センターで野外活動を行ったり、チョコレート工場を訪問したりと、どれも貴重でした。野外活動ではサイクリングをし、

久しぶり自転車だったので、とてもいい運動になりました。日本ではない遊びもあり、とても新鮮でした。

チョコレート工場では、製品が作られて売られるまでの過程が分かったり、チョコレートの試食をしたり、工場についての映像を4Dで見たり、とても勉強になりました。お土産売り場には、豊富な種類のチョコレートが取り揃えられており、つい大量購入してしまいました。

翌日には、シェイクスピアの生家を見学しました。私は今まで深い知識がなく、この見学でシェイクスピアは多くの名言を残している偉大な人物であることを実感しました。

私がとくに印象に残っていることは、英国料理を学び、BSDCの学生とアフタヌーンティーをしたことです。私たち一人ひとりに教える先生がついてくれた。英語で書いてあるレシピの説明を受けることは難しかったです。私はドーナツを作ることになり、上手にできるか不安でした。しかし、教えてくれた通りに作ると、とてもおいしいドーナツが完成しました。機会があればもう一度作ってみたいです。

アフタヌーンティーは、各々が作ったサンドウィッチを並べるとすごくお洒落でした。席には、派遣生とBSDCの学生が半分くらいになる割合で着座し、簡単な日本語を教えてあげました。食べ物がおいしかったり、会話が盛りあがったりと有意義な時間を過ごせました。BSDCの食事はバイキング方式で好みの量だけ取り分けることができました。生徒になったかと思うくらい自分の中で馴染んできた思いを抱くことができ、このような貴重な体験をさせていただいたことは、生涯忘れません。



<ホームステイ>

派遣前に私は、自分から話したり、もっと積極的になれようホストファミリーとたくさん会話したいと思っていました。しかし、ホームステイする直前になると、期待よりも不安のほうが勝っていました。そして、実際にホストファミリーと会い、すごく優しくかつ元気に迎え入れてくれたので、本当に気持ちが楽になりました。私を受け入れてくれたホストファミリーは、父ハワード、母ロレッタ、息子ロバートの3人暮らしであった。父ハワードさんは、私たちの通う学校の教員だったので、派遣期間の後半にタクシーで学校に通った数日以外は、ほぼ毎日私たちを学校まで送迎してくださった。家は田舎だったので、学校まで車で約1時間かかったが、車に乗っ

ている間にも学ぶことがたくさんありました。例えば、通過場所の説明や、少し寄り道をして建物の説明を受けたりしました。派遣期間の前半、私はほとんど話すことができませんでしたが、それに気づいたハワードさんが私に簡単な英語で話しかけてくれたことに優しさを感じました。それから車の中や夕食の合間にたくさん話かけてくださり、後半では会話が弾むようになりました。私は機会があれば是非、何らかの日本食を作ってあげたいと思い、ホームステイ最終日の2日前、スーパーで材料を購入し、お好み焼きを作りました。Good!と喜んでいただき本当にうれしかったです。別れるのがすごく寂しく、日本へ帰る前日にプレゼントをいただき、別れが一層つらくなりました。

別れ間際、メール連絡を取り合うことや写真を送る約束をし、いつしか再会が叶う日を望んでいます。



<最後に>

私がこのような素晴らしい13日間を過ごすことができたのは、両親、ホストファミリー、その他派遣に関わるすべての方々の支えがあったからだと感じています。私のこれからの人生の中で、自身や周りの方になんらかの役に立つ経験としたいと思います。そして一生の思い出に残る時間を過ごさせていただいたことに心から感謝しています。

I' ll never forget.

河邊 ゆき野

私を含めて16名の生徒が、ダービーシャー高校生派遣の第1期生としてイギリスに派遣されました。

イギリスでの私の目標は、(1) ホストファミリーと仲良くなる、(2) 授業と放課(観光)のけじめをつける、(3) 日頃からあいさつを心がけることでした。目標はほぼ達成することができました。私は派遣して良かったことが3つあります。

1つ目は、ホストファミリーが優しくとても気を遣ってくれたことです。学校の行き方を丁寧に教えてくれたり、学校帰りには温かいホットチョコレートを出してくれたり、買い物で時間は気にしないでいいと言ってくれたり、いろいろなことをしてくれて良くしてくれました。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。

2つ目は、ロンドン日帰りツアーで大英博物館やビッグベン、ロンドンアイ、バッキンガム宮殿などを訪問できたことです。ビッグベンには前から行きたいと思っていて、実際に近くで見て

とても大きくて鐘が2回もなりました。鐘の音は、学校のチャイムに似ていました。入り口には警備員がいて、少し怖かったです。日本ではなかなか見ることができないのを見れて、本当に嬉しかったし、また行きたいなと思いました。今回はロンドンアイに乗れなかったので、イギリスに行く機会があったら乗ってみたいです。

3つ目は、調理科の生徒と一緒に料理を作ったり、アフタヌーンティーで一緒に話たりしました。私はサンドウィッチを作りました。料理することは大好きだったので、野菜などを切ったり盛り付けたり、チーズをスライスしたり、たくさんの作業をして楽しかったです。その後は生徒とアフタヌーンティーを楽しみました。私の隣の席に Peter という生徒が座り、私から話かけると、いくつかの質問に答えてくれて、お好み焼きを作るのをエアーでやってくれました。話せば話すほど盛り上がり、ずっとこのまま話していたいと思いました。Peter は明るくて面白い人で、「日本語を教えて」と言われたときは戸惑いましたが、日本語を一生懸命聞いて練習してくれてとても嬉しかったし、ちゃんと教えられて良かったです。人と話すことがこんなにも楽しいんだと、改めて感じました。

この海外派遣で多くのことを学び、多くのことを体験し、多くの思い出ができました。最初は2週間は長いなあと思っていたけど、あっという間に過ぎて終わってしまいました。もっとイギリスにいたかったし、ホストファミリーや学校の先生、生徒と別れたくありませんでした。別れた後は本当につらくて、寂しい気持ちが一気にこみ上げてきました。ホストファミリーから、プレスレットとホットチョコレートのもとをくれました。大事に使いたいと思います。同じ派遣の仲間に出会えて本当によかったと思います。みんな親切で優しくていい人で、とても安心しました。



今回の派遣で、英語がもっと好きになりました。不安や困ったことがたくさんあったけど、たくさんの人たちの支えがあって、良い海外派遣となりました。けがや病気がなく無事に日本に帰ることができました。仲間と一緒に作った思い出は、一生忘れません。

今回の素晴らしい海外派遣を、第2期生に良いかたちで繋げられたらいいと思います。



私は、中学生の時から、海外で勉強をしてみたいと何となくに思っていました。それは身近に海外に住んでいたり、海外から帰ってきたりする友だちがたくさんいて、自信をもって英語を話す姿や考え方の違いに触れ、友だちに憧れをもつようになり、自分もそうなりたいって思うようになったからだと思います。そんな中、高校生になり、この海外派遣を先生から紹介されすぐに参加することに決めました。

・イギリスのイメージと実際

私は海外派遣が決まり、周りの人に報告すると、おめでとうの次に「でも、イギリスって食べ物まずいって言うし、イギリス人って冷たくてクールって感じがしない？」と言っていました。自分自身もイギリス人はクールというイメージをもっていたので、行く前は不安でした。でも、イギリスに行き生活してみると、日本のイギリスに対するイメージは当てにならないと気付きました。そう気付けた理由はたくさんあります。

まず、バスでのことです。イギリス人は最寄りのバス停で降りるとき、運転手に必ず **Thank you** や **Cheers** と言っていました。日本でも修学旅行や遠足などの団体の降るときお礼を言っている人は多く見かけますが、普段使っている市バスでお礼を言っているのでしょうか。私はあまり見かけません。だから、イギリスで登校の際、バスに乗った時驚き、イギリス人は礼儀正しいなあと思いました。

BSDC では、たくさんの先生方、生徒たちに優しくしてもらいました。ランチの時、BSDC の生徒と席が近くなり、日本のことをみんなで教えたり、「おすすめのお店はありますか？」と質問しました。すると、「空いている日があれば、私たちが案内するよ」と言ってくれて、放課後、本当に案内してくれました。学校側からの指示ではなく、わざわざ自分から案内してくれた優しさに感動し、嬉しかったです。このほかにも最初は怖そうで話しかけにくい人でもみんなで話しかけたら、優しく笑顔で答えてくれて写真も快く撮ってくれました。きっと私の最初のイギリスに対するイメージであったクールというのは、見かけだけのことだったんだなあと思いました。

そして一番、優しさをもって接してくれたのはホストファミリーである **Tracey** でした。初日、緊張して思うように英語が話せなくて落ち込んでいたら、**Tracey** が優しくハグをしてくれて **Don't worry...Don't worry...I think you can make it.** と何度も励ましてくれました。それから **Tracey** はゆっくり話してくれるようになって、私が答えるのが遅くなっても笑顔で待っていてくれました。**Tracey** のおかげで、英語だけの生活にだんだん慣れることができました。それと、もう一つの日本の思うイギリスのイメージであったイギリス料理はまずいというのも大間違いでした。**Tracey** は忙しい中、私たちのために伝統的なイギリス料理を毎日作ってくれました。どれもすごく美味しく、毎食おなかいっぱいになるまで食べてしまいました。

私はイギリスに来てみて、いろんなことを知り、気づき、インターネットや噂だけの情報で判断するのではなく、やはり自分の目や感覚で確かめてから評価をすべきだなと強く思いました。日本にだって、冷たい人やマナーを守らない人がいたり、美味しくないと評判の料理はあります。それと同じで、イギリスも一部がそうであるだけで、ほとんどが優しく礼儀正しく暖かい人が多い国なんだと知ることができました。せっかく大切なことが知れたので、日本で私がこのことを周りの

人に伝え、少しでもたくさんの方がイギリスに興味をもってくれたらいいなと思います。

・ TOYOTA ・

Tracey や BSDC の生徒に「あなたたちは何てまちからきたの？」と聞かれることが多く、「豊田だよ」と答えると、「え！TOYOTA ってあの車の??」と驚いていました。私は TOYOTA の知名度に驚き、さすが世界の TOYOTA と思いました。同時に TOYOTA がこんなに知られているなら TOYOTA のある豊田市についてもっと知ってほしいと思いました。この 2 週間で、もっともっと豊田市をみんなで推していかないと気づき、考えることができました。

・ リベンジ ・

私はこの海外派遣の中で、何回ももっと英語が出来ればなあと思いました。日本ではこんなにダイレクトに感じることはないと思うので、いい経験になりました。この悔しい気持ちを忘れずに英語力を伸ばしていきたいと思います。そして、またリベンジとしてイギリスに行きたいと思いました。2 週間という短い期間でしたが、全てのことが新鮮で学びにつながりました。こんな素晴らしい経験をさせてもらったことに感謝して、これから国際貢献をしていきたいと強く思います。



派遣を終えて

河野 秀真

今回の派遣のお話は、高校に入学して間もない5月に聞きました。それは中学生のころから海外に興味があり、いつか留学をしてみたいと思っている僕にとって絶好のチャンスでした。すぐに両親にお願いをしたところ、ぜひ行くといいと了承をもらいこの派遣に参加させてもらうことになりました。そうして秋ごろから事前研修に通い、3/14にイギリスに向けて出発しました。経験したことのない長い飛行機での移動と難しい英語を使っての税関の審査に入国する前からヒヤヒヤすることが起きヘトヘトになりながらイギリスに着きました。このように最初はいろいろな心配や不安がありました。

イギリスに行く前、僕はいろんな人にイギリスについて聞いたり自分自身こんな感じかなとイメージをわかせていましたが、意外とびっくりしたのは車のハンドルが日本と同じ右側だったこ

とです。てっきり西洋の車は左側と思い込んでいたので勘違いというのは怖いなと思いました。さらにイギリスはあまりご飯がおいしくないと言われていたけれども実際レストランやホストファミリーの作ってくれた料理を食べてみるととてもおいしく風評被害だと思いました。このことからわかるように、僕はイギリスに行く前の知識が足りなく印象だけで語っていたんだなと痛感しました。



また、自分は行く前から少くくは英語で会話出来るだろうと思っていたのですが、いざネイティブの人を前に話そうとしてみると言葉は片言になり、相手の言ってることは聞き取れず、会話の内容はただの一方的な質問になってしまい何気ない会話をしようにも頭の中で全く文が作れず言いたいことがたくさんあるのに伝えることができないもどかしい気持ちでいっぱい派遣の前半はこの先本当にやっていけるかどうか心配でした。そして僕に転機が訪れました。3/20の夜僕はホストマザーの友人の日本人の方の娘さんがやるという演劇を見に行きました。その帰りにどうやったら英語が喋れるようになるのかと尋ねてみると、とにかく話しかけるしかない、間違ってもいいから話しかけ続けることが大事だとアドバイスをいただきました。その夜から僕は同じ家庭でお世話になっている子と話し合い気合を入れ直し、その後の生活を変える意識を強めました。するとそれからの食事の時間や車での移動中、リビングなどでおもしろいように会話が弾みとてもいい家族だんらんが過ごせました。



第1回ということで手探りの派遣事業でしたが、自分にとってとてもかけがいのないものとなりました。このたびはこのような機会を設けていただきありがとうございます。「学習やコミュニケーションを自分から積極的に行う」これからの学校生活でもこのことを忘れず常に活発に様々なことにチャレンジしていきたいです。

派遣を終えて

下温湯 準平

ホストマザーの“Have a good day?”、ホストファーザーの“Y'alright?”、そして別れ際の James の“Are you sad? Do you want to stay more one week?”という言葉が今でも耳に残っています。バーミンガム空港に到着し、英国の地を踏んだのは、中部国際空港から約14時間の空の旅の後でした。英国というと、バッキンガム宮殿、ロンドン塔など、歴史的建造物の印象が強いで、飛行機から見た景色が、緑が多く、高層ビルがないことには驚きました。屋根はほとんどが茶色の煉瓦でした。「本当に英国に来たんだ」という実感をもったのは、厳しい空港の入国検査の後に、2階建てバスを見たときでした。初めて外国へ行ったので、不安でした。空港から学校へ行き、ホストファミリーと対面しました。ホストマザーと兄弟が笑顔で出迎えてくれたので、不安は解消しました。自動車に荷物を積む時、兄弟が“ We'll help you”と言って手伝ってくれたのは、とても嬉しかったです。家までは、15分ほどでしたが、車内では、緊張のため、何を話していいのか、頭が真っ白でした。ホストマザーが気遣って、いろいろと質問してくれましたが“Yes”、“No”しか出てこなかったのは残念でした。着いた家は、裏庭でサッカーのできる大きな家でした。兄弟はサッカー好きで、私とルームメイトと趣味が合いました。部屋を案内をしてくれましたが、飛行機や時差のこともあり、疲れてすぐに眠ってしまいました。朝には“Did you sleep well?”と優しく声をかけてもらったので、積極的に英語を使わなくては、と決心しました。休日には、弟の James のサッカーの試合や兄の Mathew のカーレースに連れて行ってもらえ、貴重な体験をしました。ホストファーザーは、シェフをやっていますが、よく笑い、気さくに話しかけてくれ、テレビを見ているときにも説明してくれたり、歴史についても教えてくれました。母の日には、ホストファーザーの働いているレストランで、英国料理をごちそうになりました。親族が集まってとても楽しいひと時でした。



私たちがサッカー好きだと知って、ホストファミリーは放課後、近くのサッカースタジアムへ観戦に連れて行ってくれました。それは、ダービーシャーのダービーカウンティの試合でした。さすがサッカーの発祥地だけあり、観客席はほぼ満席で、大変な熱狂でした。ホームスタジアムだったので、周りはダービーカウンティのサポーターばかりでした。試合前から”Come on Derby” “Come on Derby”と応援の声の大きさは日本とは桁違いでした。日本の観客席よりもコートに近く、臨場感を味わえました。応援に旗が使われてなかったですが、「旗などなくても応援できる」と言っているようでした。選手がミスしたときは、敵味方関係のない凄まじいブーイングに驚きました。結果はダービーカウンティが負け、弟の James は泣いていました。サッカーへの情熱が熱い国だと実感しました。



楽しみにしていたロンドン日帰りツアーが土曜日にありました。ロンドンは、大都会なので、とても混雑していました。スリが多いので気をつけるようにと言われたので鞆を前に下げて進みました。最初に大英博物館を訪れました、見たかったエジプトのミイラやロゼッタストーンを見ることができました。やはり1日過ごしたとしても見きれないほどの展示物がありました。それなのに、入場が無料なのも驚きました。次にトラファルガー広場を通り、テムズ川の向こうに観覧車のロンドン・アイを眺め、ロンドン塔に行きました。15分おきに鳴る金鐘の音は、学校のチャイムと同じですが、ロンドンで聞く鐘の音は格別でした。それからかなり歩いてバッキンガム宮殿を見たとき感激でした。銃を持った近衛兵も見えました。その後は、ハロッズでお土産を買いました。疲れましたが、ロンドンは最高の訪問地でした。



今回海外の文化に触れる良い体験ができました。英国料理は、おいしくないと言われたのですが、どの料理もおいしく、特に”Fish and Chips”とパンはおいしかったです。英語で戸惑うこともありましたが、ルームメイトと助け合いながら、コミュニケーションをとりました。「この英語で通じるかな」と思いながらも、勇気をもって使ってみて、通じたときの嬉しさは忘れません。また、通じなかった時は、なぜ通じなかったのかを考えることで、英語力が少しでも向上した気がしました。

今回の訪問で、視野が広がったり。仲間と助け合うことを学んだり、英語学習への意欲が高まりました。世界の人々とコミュニケーションができるようになるために、英語をしっかりと勉強したいと思います。最後に、今回の訪問が無事に行えたのも、市長さんをはじめとする市の担当者の方、引率の先生方など、多くの方々のおかげです。ありがとうございました。

派遣を終えて

鈴木 瑞菜

私は今回初めてイギリスに行きました。ホームステイは去年に一度経験したことがありますが、その時はうまく喋れなかったのもう一度チャレンジしたいと思いこの派遣に応募しました。また、派遣前に自分で決めた目標である、イギリスと日本の違いを調べておくことができました。

ホストファミリー

イギリスについて2日目の日曜日は、長女Taraの誕生日とmother's dayでした。そのため、父の親や兄弟が来てみんなで小さなパーティーをしました。一緒にご飯を食べてお喋りをするまでは日本と同じなのですが、違ったのはその後でした。みんなリビングに戻り、ビデオカメラで撮影しながら友達や家族からの手紙を読み上げ、プレゼントを開けるのです。私だったら恥ずかしくて手紙を読み上げるなんてできないし、家族の前でプレゼントを開けるのでさえ嫌なのに、平然と行っていました。そのうえ、家族からの手紙の時には、その相手に抱きついてキスまでしていたので、すごく大胆だなと思いました。



道路・町の様子

イギリスの道路は日本と同じ左側通行で右ハンドルです。しかし、交差点は円形になっていて、日本ではあまり見慣れなかったのが驚きました。ラウンドアバウトと呼ばれるらしく、信号がなくていいのは魅力的だと感じました。ホストファミリーに聞いたところ、車の種類はマニュアル車に載る人の方が多く、お年寄りの方で安全のためにオートマチック車に乗る人がたまにいるそうです。日本では、若い人はほとんどオートマチック車に乗っています。また、イギリスの建物はレンガ造りで古風な感じがしますが、最近の日本の家はソーラーパネルがついていたり、スタイリッシュな感じになっていたりする。イギリス人は古い物が好きで日本人は新しい物が好きなのかなと思いました。信号が変わるスピードがとても速いのもよく覚えています。速足で渡らないとすぐに赤

になってしまうので、少し焦りました。でもイギリスの人達は、信号が赤でも車が来ていなかったら渡っている人が多かったので危険だなと思いました。歩道を歩いていると、よくゴミ箱を目にしました。バス停や電車の駅には必ずゴミ箱が置いてありましたが、道路にはたくさんのゴミが落ちていて、日本はキレイなんだと実感しました。



人

お礼を言う人や優しくて親切な人がとても多かったです。お客さんはバスの乗り降り、お店で買い物をした後は必ず”thank you”または”Cheers”と言っていました。私は最初、自分からあいさつを言うのが不安で、バスでの乗り降りはすごく緊張しました。しかし、相手が笑顔であいさつを返してくれるととてもいい気持ちになって抵抗がなくなりました。これは日本でも続けていきたいと思いました。店員さんは日本とは違って、お客さんがいてもお構いなしに商品を棚に並べていたので驚きました。日本ならお客さんのいないときに商品を並べて、いたらお客さんを優先するので、面白い違いだと思います。お店のドアを開けて通るのを待っていてくれる人もたくさんいました。初日に電車の駅から学校までの行き方が分からず、地図を持ってオロオロしていたら声をかけてくれた人もいて、すごく助けてもらいました。

学校にはアフリカ系の顔立ちの人が何人かいました。私たちのホストファミリーもインド人だったので、住んでいる人はイギリス人以外にも中東系、東南アジア系、中国系、アフリカ系の移住者が多いことを知りました。日本の場合の移住者は韓国人などのアジア系の人が多いので、イギリスに比べると国際色はそこまで豊かではないと思いました。

日本と中国

ホストファミリーの次女 Sara は、日本は中国の一部だと思っていたそうです。Sara が「日本は中国にある」と言ったので、母が「日本と中国は別々の国だよ」と教えたら、彼女は「私の持っている日本の絵が描いてあるバックには **made in china** と書いてあるから」と反論していました。なんだかすごく面白いなと思った。タクシーに乗ったときも、「どこからきたの？中国？」と話しかけられました。中国も日本も同じだと考えている人が多いのかなと感じました。

最後に

今回の派遣では、本当にたくさんのことを学ぶことができました。ホストファミリーとの会話も、去年ホームステイした時よりはたくさん話をすることができました。しかしまだまだ力不足で、言いたいことが伝わらなかったり意味が分からないこともあったりしました。これからはもっと熱心に勉強して、もっと英語が話せるようになったらまたイギリスに行きたいと思いました。

日本を出発する前、イギリス人は無愛想で、英語の発音がアメリカ英語の発音と違い、聞き取りづらいと思っていた私はとても緊張しながらイギリスに行きました。

実際、ホストファミリーやBSDCの先生方に会ってみるととても温厚で、優しく私たちを受け入れてくれました。英語もゆっくりかつ丁寧に目を見て話してくれたので、思っていたよりはコミュニケーションをスムーズに取ることができました。皆さんの温かいおもてなしを受け、それに甘えるだけではなくこの研修中、私は精一杯英語を話そうと初日に強く決心しました。

幸い、ホストファミリーには自分と同じ17歳のLaurenという女の子がいたので会話する内容が途切れることはありませんでした。

初日、緊張していた私たちにLaurenが「アメリカの有名な映画があるんだけど見る？」と言って「THE HUNGER GAMES」という映画を見せてくれました。当然日本語字幕もなかったので、最初は理解できるのかと心配でしたが、隣でLaurenが場面ごとに簡単な英語でストーリーを教えてくれました。おかげでストーリーが理解でき、3話まで見てしまいました。イギリスでは11月に4話が公開されるそうなので是非見たいなと思いました。

ホストファミリーのお母さんであるAnnaはとても料理上手で「私はできるだけ多くのイギリスの伝統料理をあなたたちに食べさせてあげたいの」と言って、毎日イギリスの伝統料理を作ってくれました。いろいろな人からイギリスの料理は日本人の口には合わないと聞いていたので、果たして家庭料理はおいしいのかと心配していましたが、想像を上回るおいしさに驚きました。

事前にAnnaからイギリスに来たら何が食べたいか聞かれていて、Fish and ChipsとShepherd's Pieが食べたいとリクエストしたらどちらの料理も出してくれて、すごく嬉しかったです。Shepherd's Pieの名前の由来まで教えてくれて、すごく勉強になりました。忙しい中、毎日手間のかかる料理を私たちに提供してくれたAnnaに心から感謝しています。

また、Laurenは彼女の友人たちとのパーティーに誘ってくれました。そこではたくさんの現地の子と出会いました。そこで初めてLaurenと現地の子が話しているのを聞きました。彼らの会話の中にはスラングも多く、とても早口で話していて、いつもいかにLaurenが私たちにゆっくりかつ丁寧に話しかけてくれたのかを身にしみて感じました。私たちも自分たちの力だけで会話を聞き取ろうとしていましたが、時々分からない部分があったりするとLaurenは気にかけてくれて、話の内容を簡単に説明してくれるなど、会話に参加できるよう手助けしてくれました。おかげで彼女の友人らと打ち解けることができ、好きなミュージシャンの話など同世代の子と共通の話題で盛り上がりました。その夜は特別楽しい時間を過ごすことができました。

数日後、英語のみの生活をしていくにつれ自分の思考回路がだんだん英語に変わっていく手ごたえを感じると同時に、自分の意思や言いたいことがなかなかうまく伝わらなくて、もどかしい気持ちにもなりました。Laurenがどれほど私たちに合わせてゆっくりかつ丁寧に話してくれていたのかを実感し、改めてLaurenの優しさに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この長いようで短かった2週間を通して、私は自分の英語力を向上させるという目標を少しでも達成できていればいいなと思います。決して正確な英語ではありませんが、勇気を出して話してみれば、相手に意思は伝わるということが分かりました。その結果、現地の人々と繋がることのできたことをとてもうれしく思っています。ホストファミリーを含め現地の方々には本当に親

切にさせていただき、一生忘れられない思い出を作ることができました。この研修に携わった皆さまには本当に感謝してもしきれない気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。これからもこのような国際交流の機会があれば積極的に参加したいと思います。



この派遣は、私自身にとって内面的に大きく成長できました。日本にいるときは英語を使う機会はほとんど皆無であるのに対して、イギリスではもちろん英語しか通用しません。加えて現地独特の言い回しやアクセント等、分からない場面がかなりあります。そんな時に、もう少し日本にいるときに勉強していけば良かった、英語ではこれは何て言うのだろうか？等反省すべき点が多々ありました。しかしながら、前述のように、ホストファミリーや現地の学校の生徒さんたちが簡単な英語で話しかけてくれたので、最低限の会話はできましたが、ネイティブスピーカーというにはまだまだ遠いことを知りました。しかし、こうした状況の中で、相手に日本語が通じない為嫌でも英語で話すことによって、自分の中で積極性や、相手の言っている事を理解しようとするので、リスニング力がかなりつきました。これからもっと英語を勉強しなければならないのは当たり前のことですが、それだけではなく、英会話も日常生活に取り入れ、ネイティブ並みに話せるようになりたいです。

私はこれまで、英会話を身につけるには外国に行くしかないと思い込んでいたのですが、今回の派遣で、大事なのは自分がある国というよりは、自分を取り巻く環境ということに気が付きました。外国に行かずとも、自分なりに日々の生活の中に取り入れていけば、自ずと英会話はついてきます。例えば、英語で日記をつけるとか、学校でも友達と英語で会話をするなど、その気になればお金をかけずにネイティブスピーカーになれるかもしれなのです。私自身は会話をほとんど映画で学びました。そこまでは良いのですが、私には肝心の使用が欠けていました。外国語系のクラスを取っているにも関わらず、気恥ずかしくて前に進めずにいましたが、これを契機に英語の堪能な友人に積極的に話していこうと思います。

私の将来の夢は、いつかニューヨークで働くことです。その夢も、今まではただ、出版関係の仕事ができればいいな、どんなアパートに住もうかな、などといった大変漠然としており、まったくイメージのない夢でしたが、今回、イギリスに行くことで、その夢に少しですが、具体性が出てきました。空港に降り立った瞬間に感じた異国ならではの雰囲気や多国籍な感じが、きっとニューヨークもこんな感じなんなのだろうなど、私の夢のイメージがさらに現実味を増していきました。

またロンドンでは、世界最強の島国であった大英帝国の名残を感じる事が出来ました。まさにこのロンドンで、数々の歴史上の人物がこの地を踏み、同じ景色を見たのだと思うと、何とも形容しがたい熱い思いがします。さすがに有名な大都市とあって道行く人々もお洒落で、夏目漱石のように若干人種的な劣等感を抱く時も少なくなく、おそらく岩倉使節団や津田梅子も同じ思いをしたのではないかと勝手に想像したりしていました。それでも、一つ気づいたのは、自己のアイデンティティの確立は自分にかかっているということです。自分のもとから持っている物を生かして、自分らしく生きていければいいなと思います。

今回の派遣を通じて、自分がいかに日本で楽に、誰かに頼って生活していたかを思い知らされました。最初に述べたように自分の世話、例えば衣服の洗濯や掃除など、普段は親に頼ってしまうような事も、滞在中は全て一人でしなくてははいけません。さらには言葉の壁もあり、とても不安に感じていました。ですが、優しいホストファミリーや同じ派遣団の仲間、先生の助けもあり、無事に帰国することができたし、何よりも家族から離れていたからこそ、改めて自分は遠い異国

の地にいようと一人ではない、多くの人に見守られて生きているのだ、と感ずることが出来ました。

参加して本当に多くのことを学びました。大変名誉なことです。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

派遣に参加して

西山 萌

私が研修に参加したきっかけは、外国に行きたいと先生に行ったらイギリス派遣があるよと言われ、ヨーロッパにもともと興味があったので参加しました。派遣のための語学研修に行ったとき、初めは英語が全然出来ず、本当にこの派遣に参加して大丈夫なのだろうかと思っていましたが、学校の先生や家族、友達が応援してくれ、英語を教えてくれたのでこの派遣から帰ってきたとき前の自分より成長して帰ってきたいと思うようになっていました。

1 自分の中で起こった変化

実際にイギリスに行ってみて自分が持っていたイギリスのイメージが変わりました。イギリスのご飯は不味いと思っていたがそんなことなかったし、いきなり電車の出発するホームが変わったときわざわざ変わったホームの場所まで案内してくれたりと実際に見たり体験して変わりました。外国の人は怖い、暴力的と思っていたがそんなことはありませんでした。

派遣でイギリスに行く前は英語を勉強することが大嫌いだったけれど、行ったとき自分の言いたいことがうまく言えないなどということがあり、それがとても悔しくて英語をもっと勉強しようと思いました。それに今はなんで英語をすごく嫌いだったのだろうと思うほど英語が好きになりました。英語が嫌いから好きに変わるなんて思ってもみなかったから変わったときに驚きました。自分の中で色々な変化があったけれど、どれも自分にとっていいことなので参加して良かったと思います。

2 日本との違い

公共交通機関には大きな違いがありました。電車は、出入口が日本のように開くのではなく、ボタンを押して手動で開けるとものでした。タクシーでは、運転手との座席の距離が近かったです。バスは、運賃を降りる時ではなく乗った時に払います。出入口が一つしかありません。バスの中での飲食は当たり前で、携帯電話での通話も問題ないなど、いつも通学手段として使っているバスの使い方やルールの違いに驚きましたし、最



初は使い方がよく分からなかったです。また、交差点のようなところが円になっていて、回って違う道に行く道路を見かけました。横断歩道の信号の青色の時間がすごく短く、赤色の時でも渡っている人を見かけることがありました。

道路や建物の近く、線路脇などに落ちているゴミの量がすごく多かったです。バスの窓を開けて外にごみを捨てる、ゴミ箱があるのにそこには捨てずポイ捨てる人や、ガムや唾も平気で道路に吐いている人を見かけました。一方で、ボランティアの人か分からないけれど、落ちているごみを拾う人もいました。そういうのを見て、日本の人はポイ捨てる人も少しはいるけれどほとんどの人がごみはきちんとゴミ箱に捨てているから綺麗な国と外国人から言われるのかと思いました。外で履いていた靴を脱いで家に上がる、掃除を毎日しているから綺麗なのか、なんてそれを見て考えました。

3 初めてのホームステイ

ホームステイをするのは初めてでホストファミリーと仲良くなれるか、イギリスの生活に慣れるのかと思ったけど、ホストファミリーは優しく生活も問題なく過ごすことができました。ホームステイをしてなかなかできない経験をたくさんしたので、ホームステイが出来て良かったと思います。



4 派遣を通して思ったこと

私は、この派遣で色々なことを学び、体験し自分にとっていい変化もありました。イギリスの人は日本に興味があり、日本語を教えてほしいと言ったり、わざわざパソコンなどで調べたり、日本語がペラペラな人もいました。他の国の文化や言葉に興味を持つことはその国のことを少しでも知ることができると思いました。イギリスの人は優しく、自分もこんな人になりたいと思いました。

途中でこの派遣を辞めようと思ったとき、周りの人が困ったら助けるから途中で諦めるな、こんなチャンスめったにないからやめないほうがいいなどと励まされました。今はあの時やめなくて良かったと思います。周りの人にたくさん元気づけられ、応援されたからこそまでやれたと思います。派遣で学んだこと、体験したこと今後の生活に活かしていきたいです。

将来なりたい仕事が決まっていたけれど、今回行ってみて進みたい道の幅が広がった。また、イギリスに行って、今回見てない所に行きたいし行った所をゆっくり見たい。友達に紹介して一緒に遊びに行きたいと思います。

空が日本より高く感じました。イギリスの建物はレンガ造りが多かったです。また、ロンドンの広場のような所では、パフォーマンスしている人がたくさんいたのが印象的でした。



イギリスに行く日がどんどん近づいてくるにつれ、楽しみと同時に不安も増しました。ホストファミリーとのやりとりは事前にしましたが、どのような人かわからなかった上、食べ物は美味しいのか、安全なのだろうかなど、たくさん悩んでいました。しかし、今帰って来て振り返ってみると、その不安はいつの間に消えていたのだろうかと思うぐらい最高の時間を過ごせました。

○ホストファミリー

イギリスに着いた日から一緒に時間を過ごしたホストファミリー。私たちの気持ちをすごく考えてくれて、心配事は一切なく、まるで家族と一緒にいるようでした。私のホストファミリーは色々な国から生徒を受け入れるのがとても好きな人で、話を聞いていたら、私もいつかホストファミリーをやってみたいと感じました。また、多くのイギリスの文化や習慣についてホストファミリーの家、ホストファミリーと一緒に過ごした時間で学びました。ほぼ毎日一緒に食事をとり、たくさん会話をして、日本とイギリスの違いをたくさん知ることができた場所でした。

○シェイクスピア

ホストファミリーとだけでなく、学校でも様々な体験をしました。その中でも最も私の印象に残っていることについて話したいと思います。それは、シェイクスピアについて学んだことです。私はイギリスに行く数日前に、初めてのシェイクスピアの本を読み終わりました。そのため、とても興味深かったです。最初は舞台について習いました。実際の舞台のつくりも見ることができ、パフォーマンスを見ているわけでもないのにワクワクしてきました。「観客をストーリーに引き込むようにこのような形にした」とツアーガイドさんは話していて、本当に演技している人が近くに感じられ、緊張感のある空気をつくる場所だと圧倒されました。

その後にはシェイクスピアの生家を訪れました。シェイクスピアの話の一部を実際に演技していて、その時代はどのような感じだったのか、シェイクスピアとはどのような人だったのかなどたくさん学べました。シェイクスピアの本は言葉遣いも難しく、読むのは大変だと思っていました。しかし、実際に読んでみると他の本とは違う素晴らしさを持っていて、展開も面白く、本当に楽しめました。有名な作品が多いため知っている人も多いと思いますが、私は日本のみんなにもシェイクスピアの良さを伝えたいなと強く感じました。



○仲間

全然知らない国で2週間過ごした中で、一番支えになったのは一緒に派遣に参加した仲間の存在でした。日にちを重ねるごとに絆がどんどん深まっていき、なんでも相談し合えて、話し合える友達になりました。みんながいたことで、色々と順調にいき、楽しい時間を過ごすことができたと思います。本当に感謝しきれ



ません。

○学校

学校にほぼ毎日通って感じたことは、生徒のみんながものすごく楽しそうなことでした。料理、デザインなど珍しい授業もあり、自分の夢に毎日一歩ずつ向かっている感じがしてかっこいいなと思いました。また、教え方がとても印象に残りました。クリエイティブ・メディア・ワークショップで美術をやったときに、絵の描き方を学ぶのではなく、「上手い下手は関係ない、できないという考えを捨てることが大事だ」と教わり、自信をとっても持てました。生徒それぞれの個性を大切にしつつ、本当に大事なことを教わり授業を受けられるというのは素晴らしいと思います。私も将来先生になりたいのですが、ここでの経験を生かして、生徒みんなが満足できて、自信が持てるような素敵な先生になりたいと感じました。

○まとめ

あっという間の2週間でした。イギリスでも友達がたくさんできて、イギリス料理もたくさん食べて、英語力もついたと思います。英語だけに囲まれた環境で過ごすことはとても貴重で、めったに体験できないことだと思います。このように充実したイギリスでの生活を経験することができて本当に幸せでした。私が気になっていた文化の違いもたくさん知ることができました。こ



こは日本の方がいいとか、ここは日本もイギリスみたいにしたい、など感じるが多かったです。それを私はたくさんの人に話して、考えを聞いてみたいと思います。本当にもっとやりたいことがたくさんあり、もっとホストファミリーや学校の生徒から話を聞きたかったです。イギリスの文化やイギリス人について、より深く知るためにも、次回はもう少し長期間行けるといいなと思いました。

派遣を終えて

松岡 奈那

今回ホームステイでは、2人1組で一家の家にお世話になりました。私とペアになったのは、南高校の高野花帆さんでした。花帆さんは明るく、とても優しい子でした。私は本場の英語に触れるのが初めてで、初めのうちは全く聞きとることができませんでした。それとは裏腹に、花帆さんはアメリカに3年いたこともあり英語が得意で、私はほとんど助けてもらえばなだったので申し訳なかったです。

海外もホームステイも何もかも初めてで不安と緊張でいっぱいでしたが、そんな気持ちはすぐ忘れてしまうほどに、ホームステイ先の Aker さん一家は私たちを温かく迎えてくれて、何不自由なく楽しく13日間過ごす事が出来ました。Aker さん家族は五人家族で、他にも猫が2匹と犬が一匹いました。ホストファミリーはみんな本当に優しく、親切にしてくださいました。自分たちに話しかける時は、必ず分かりやすいようゆっくり話してください、他にも休日には行きたかった植物園やショッピングに連れて行ってくれました。

ホストマザーの **Anna** さんは私たちが初めてバスに乗ったときに一緒に乗ってくれ、どこで降りればいいのかや、帰りはどこの何番のバスに乗ればいいのかなど親切に教えてくれました。また、料理が得意で毎日おいしい料理を食べさせてくれました。イギリスの伝統料理も私たちのためにたくさん作ってくださり嬉しかったです。

ホストファーザーの **Steve** さんは、よく携帯の翻訳機能を使って英語を日本語に訳してくれたり、「いただきます」や、「ごちそうさまでした」を覚えて皆で言うてくれたりと、日本語について興味を持ってくれました。昔はバンドをやっていたことがあり、CD を出していたとあってそれを見せてくれたりしてとても驚きました。いろんな話を聞かせてもらい面白かったです。ファーザーとマザーの運転は実際の速度はゆっくりなのに、体感速度がその2倍くらいあってすごく面白かったです。

長女の **Sophie** さんと次女の **Hollie** さんは、2人ともロンドンに独り暮らしをしていて、一緒に過ごせたのは2日間だけでした。**Sophie** さんはいつもニコニコしていて私たちにたくさん話しかけてくれました。**Hollie** さんはクールなイメージでしたが、よく私に話しかけてくれました。でもお姉さんの英語は少し早くてあまり理解できず返答できないときが多々あり残念でした。少し悔しかったです。ふたりともとても素敵なお姉さんたちでした。

三女の **Lauren** にはたくさんお世話になりました。**Lauren** は本当に優しく気の利く良い子でした。目が合うといつも微笑んでくれました。時にはゲームに誘ってくれ、三人でマリオカートなどをして遊びました。楽しかったです。二人だけでゲームした時もありましたが、**Lauren** がゆっくり簡単な言葉だけしゃべってくれて、会話に困る事はありませんでした。その時少しだけ英語が出来てきたような気がして嬉しかったです。また、**Lauren** のお友達と一度ピザ屋さん連れて行ってもらいました。年齢は13歳の子から17歳の子までいました。けれど英語には敬語がないせいか、先輩後輩関係なく、皆対等に会話を楽しんでいました。日本だと1つ年齢が違うだけで壁が出来てしまうときもあるので、そこが外国のいいところだなと感じました。



左から、Hollie、Lauren、私、花帆さん↑

イギリスの町並みはとても綺麗でした。日本に比べて土地がすごく広くて緑がたくさんありました。360度見回した時、緑がないなんてことはありませんでした。家は主にレンガ造りでおしゃれだなと思いました。大きな樹木、針葉樹林が多く生えていました。しかし、道路の脇にはごみのポイ捨てが多く見られました。

三月のイギリスには、主にプリムラ、クロッカス、水仙の花が咲いていました。桜や柗の木もたくさんありました。イギリスにも桜はあるのだなと驚きました。

イギリスには優しい人がたくさんいました。例えば、バスに乗っていた時、赤ちゃん連れのお母さんが乗ってきた瞬間、前に座っていた若いお兄さんがすぐ立ち上がって席を譲っていたり、私たちがショッピングをしている時、出ようとしていたドアをお姉さんやお兄さんが、私たちがドアに手をかけるまで、閉めずに待ってくれたなど親切な人が多かったです。私も見習いたいなと思っていました。

BSDCは、きれいでとても広かったです。廊下に飾ってあった絵や写真の作品は素敵なものばかりでした。そこでは、歴史の授業、テーブルセットの授業、アートの授業やカルチャーショーをしました。カルチャーショーでは、私たちの班はソーラン節を披露し、無事成功に終わりました。後日筋肉痛になってしまいましたが、こうして外国の人に他国の文化を知ってもらえることができ、嬉しく思います。

他にもバートンの市街地、ビール工場、ロスリントン林業センター、シェークスピアの生家、ロンドン、チョコレート工場に行きました。林業センターでは、イギリスの自然に囲まれながら皆で体を動かし、少し疲れましたが楽しかったです。ロンドンではたくさん歩き、たくさん有名なところを見て回ることができました。今まで写真でしか見たことのなかった建物などを実際に目の当たりにすることが出来て、感動しました。他の場所では見るだけでも楽しかったのですが、説明はどれも私にとって難しく言葉を理解することはほとんどできませんでした。

今回イギリスに来て、たくさんのことを学び、経験することができました。どれも初めてのことが多く、私の人生にとって大きな影響をもたらしてくれました。そして良い刺激になりました。また、新しくできた仲間と辛くも楽しく、おもしろい思い出をたくさん作ることが出来ました。イギリスへ行き、英語があまりできなかったことがとても悔しかったです。このことをばねに、これからも、もっと英語の勉強に励みたいと思っています。

そして、イギリスと一緒にいった友達や私たちを支えて下さった人、応援して下さった人、協力して下さった人には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



派遣を終えて

山本 瀬奈

最高の友達に出会えた最高の経験

私は今回初めて海外に行きました。そして、行く半年ほど前から一緒にイギリスに行くメンバーと研修をしてきたのですが、16人全員違う学校で、学年も違います。最初はものすごく不安で、みんなとちゃんと仲良くなれるかと思っていました。しかし、研修を重ねていくたびに、みんなと仲良くなり、はじめの頃の不安はまったくなくなりました。私は、英語は好きですが得意ではありませんでした。だから研修で焦ることも多々ありましたが、そのたびにみんながフォローしてくれました。そういうとき、このみんなとならイギリスで楽しく勉強できると思いました。

イギリスへ向かう飛行機は、時間がとても長く感じました。それと同時に、今から2週間英語の勉強をするんだとやる気も出てきました。私の今回の留学の課題、それは英語に慣れること。なぜなら、英語に慣れて、外国の世界をもっと身近な存在にしたかったからです。日本にいれば、日本語さえできれば生活ができます。しかし、外国では、その国の言葉を理解していないと意思疎通ができません。だから、自然に辞書を開き、勉強する習慣が身につきます。私はこの機会を得ることができて、とても幸せだと感じた。

イギリスでのハプニング

学校に行く初日に、道に迷ってしまい、集合時間を1時間以上過ぎてしまいました。道に迷ったとき、歩いていた人に道を聞き、教えてもらいました。そこで一つ学んだことがある。それは、日本人のアクセントのない英語では全く通じないということです。だから、アクセントを強調して言ってみたら通じました。私は、ここで恥ずかしがっていたら何もできないと思い、間違えて

もいから伝える努力をすることを学んだ。そうすれば、向こうの人も理解しようとしてくれることに気がつきました。

一番の思い出

私が一番心に残っていることは、3月20日に行った英国料理と料理法の紹介です。この日は、一人につき一人の生徒がつき、それぞれ料理をするというものでした。

私のパートナーとなった生徒は Pate という子で、レモンケーキを作る担当になりました。初めて英語で書かれたレシピを見て、正直1対1で大丈夫かなと不安になりました。量の単位もグラムではなくオンスという単位で書かれていました。でも、Pate はとても優しくて本当に面白い人だったので、私の不安はなくなり楽しさに変わっていきました。

私は普段から料理をするのが好きで、包丁などは使い慣れていたので、作業自体はそれほど問題ありませんでした。Pate も「すごく上手だね。僕より上手いよ」と笑ってほめてくれました。途中で、ケーキにバターを入れ忘れるというハプニングもあり、私と Pate は大爆笑しました。たぶん私たちのペアは常に笑っていて、他よりうるさかったと思います。Pate はどんなことにも笑ってくれて、とても良い人でした。このあと、私と瑞菜ちゃんと彩果ちゃんて日本料理の紹介を無事終えることができました。最高の1日でした。



カルチャーショー

私はカルチャーショーでソーラン節を踊りました。研修のカルチャーショー準備の時は、時間がなく完全な状態でみんなと合わせることは出来ませんでした。そこで、踊れる人の動画を見て個々で練習することになりました。

みんなで合わせ練習が出来たのは、カルチャーショー前の約2時間でした。でも、皆踊れるようになっていて、本番はみんなをあっと言わせようと言っていた。皆やる気十分だったが、練習時間の短さのため不安は残っていた。しかし、本番は大成功でした。会場全員が声を出してくれて、盛り上がりました。私たちも気持ちよく踊ることが出来ました。その日と次の日は、全員太ももの筋肉痛で叫んでいましたが、がんばった証の痛みだと思います。



終わりに

今回の派遣は、正直ものすごく不安でした。初めての経験ばかりで、全て日本と違うし、2週間も耐えられるかなと思っていました。でも、実際に行ってみて、自分が得られたものはかなりたくさんありました。ハプニングもあり、失敗もしたけど、その分ホストファミリーやペアだった子や、大好きな友達に助けられました。

今では、この体験が出来たのは本当に幸運だと思っているし、自分自身成長できたと思います。今回友達になった子はいいい子ばかりで、これからも仲の良い友達として、また一緒に留学した最高の仲間として付き合っていきたいです。

そして、留学を応援してくれた学校の先生方や親に本当に感謝している。特に、親への感謝の気持ちはイギリスに行ってかなり強くなりました。これからも英語の勉強を頑張ってやっていきたいです。あのメンバーでイギリスに行くことができ、本当に良かったです。最高の思い出をありがとうございました。



派遣を終えて

和田 彩果

私は、今まで自分の意志をあまり持たず人に流されがちでしたが、BSDC やホストファミリーと過ごす中で自主的な行動の大切さを痛感しました。また、正しい文章で正しい英語を話すことが大切なのではなく、つたない英語でも相手に伝えようとするコミュニケーション能力が一番大切だと気づかされました。

コミュニケーション

私は将来に向けてコミュニケーション能力を磨きたいと派遣前からずっと思っていました。恥ずかしながら派遣前、“海外に行けば相手が話しかけてくれて会話が成り立つ”と楽観的に考えていました。しかし現実とは全く異なり、自分から話しかけなければ会話は成り立ちません。BSDC 登校初日に BSDC の生徒さんと話す機会がありました。最初私は相手が話題を提供することを待っていましたが、無言の時間が続き気まずい空気が流れてしまいました。そこで勇気を出して話しかけたところ話が続き会話が成り立ちました。そこで分かったのは、つたない言葉でもよいかから間違いを恐れず話しかけてみる。そしてわからなかったり何て言っているかが聞き取れな

かったりしたときには “I couldn't catch what you say.” と聞き返し自分の意見を言うことが必要だということです。ホストマザーと会話しているとよく聞き返したり、意味を確認していることに気づきました。コミュニケーションにおいてわからないままにすることは、会話のキャッチボールが途絶える原因になるのでよくないと思い知りました。最後のカルチャーショーの後の夕食のとき、自分から話しかけて話が盛り上がったことは自分が当初目的にしていたコミュニケーション能力が少し上がった気がしてうれしかったです。



ホームステイ

Anne さんの家でのホームステイは衝撃的なことばかりで、毎日が発見でした。まず Anne さんがお茶をだしてくれたとき、「グリーンティーよ」とでできたグリーンティーに牛乳が入っていたのは最初に衝撃を受けました。その日の夜お皿を洗うのを手伝おうとしたら、食器の洗い方にまた衝撃を受けました。食洗機に入れる…までは普通でしたが、手洗いのときにシンクに水をためて洗剤を投入しすぐだけ！汚れがついていても気にしない！次の日の学校帰りにスポンジをさっそく購入し、自分たちでお皿を洗うことにしました。ここで学んだのは自主的な行動をしないとそのままになるから自分でしなきゃ！ということです。また、バスは20分遅れてくるの



が普通だったので指定されたバスに乗っては遅刻寸前になります。だから一つ前のバスに乗ると考えて動くことが必要になりました。Anne さんに「今日バスが20分遅れたの」というと「日本みたいに時間通りにはこないのよ。日本はすごいわ」と言われました。そして Stratford-upon-Avon ツアーがあった夕食のときに「私の祖先はシェイクスピアの娘の家の土地を買ったの！！お金持ちだったのね」と冗談交じりに言っていたことも本当だったらすごいなと思いました。Anne さんとの生活で受けた衝撃は忘れられない思い出になりました。またホームステイ中に私のキャパシティが大きくなったと感じます。

最後に

BSDC やホストファミリーとの生活で大切なのは自主的な行動とコミュニケーションを取ろうとする気持ちだと分かりました。つたない英語でも話せば伝わるのが分かったからです。最初のころは、正確な文法や発音で話そうとして固い考えになり口数が減り、コミュニケーションをとることが難しいと感じました。しかし、文法や時制が違って伝わる。それよりも無言でリアクションを取らないことのほうがだめだと分かりました。つたない英語でも話しかけて仲良くなれることもある、自分から動かないと何も起こらないと痛感しました。BSDC やホームステイではイギリスと日本との違いに困惑したり、日本には発見できないこともたくさん学びました。最初の1週間は生活に慣れたり、英語を聞き取るので精一杯でしたが、2週間目からは次第に生活にも慣れリスニング能力も上がった気がします。せっかく慣れてきたところだったので、もっと滞在したい、もっと外国の文化を学びたい気持ちでいっぱいです。私たちが社会人になるころには、国際化はもっと進んでいることが予測されます。この派遣で学んだことや抱いた気持ちをこれからの高校生活や大学、次へとつなげて社会に貢献できる人材になれるよう努力していきたいです。

研修を終えて

稲垣 宏行（引率教諭）

この度、第一回ダービーシャー高校生派遣に携わることができましたことを、大変嬉しく、また、ありがたく思っております。豊田市の姉妹都市であるイギリス・ダービーシャーにて十六名の生徒たちと過ごした本研修は大変意義深く、充実したものでした。

私たち派遣団が到着した三月十四日、イギリスは日本で言うところの真冬の寒さでした。出発から約十六時間を経てバーミンガム空港に到着し、空港の“Welcome!”という文字や“Lift”という表示を見て、生徒たちはいよいよイギリスに降り立ったのだと期待と不安の入り交じった様子でした。空港での入国審査を終えて学校へ向かい、緊張した面持ちで、いよいよホストファミリーと対面しました。多くの生徒にとってホームステイは初めての経験であり、英語ばかりの生活はきっと心細く、不安であったことと思います。そのような中、Burton and South Derbyshire College(BSDC)やホストファミリーの皆さまは、大変温かく迎えてくださいました。

本研修では、イギリスの歴史・文化に関する講義をはじめ、BSDC の学生たちとの実習や各地名所の見学など、実に多彩なプログラムを用意していただきました。私たち派遣団はこのプログラムを通じて、イギリスをこの目で見て、肌で触れ、身体で感じる事が出来ました。家庭科や美術科などの実習科目では、BSDC の学生たちと協力しながら料理や作品を作りました。英語で指示を聞いて分からないことを質問し、課題を達成するというこの一つ一つの積み重ねがより良い言語習得の機会であると、改めて強く感じました。生徒たちは料理や作品が上手く出来ると達成感でいっぱい、互いに手を取り合って喜んでいました。

このように、二週間のプログラムはどれも刺激溢れるもので、新たな発見ばかりでした。中でも特に印象に残ったのは最終日に行われたカルチャーショーです。誰もがお世話になった方々へ

の感謝の気持ちをこめて、カ一杯準備をして臨みました。日本や豊田市の紹介では、トヨタ自動車、松平わ太鼓、香嵐溪、そして自分たちが通う学校の制服などを取り上げました。どう発表すれば分かりやすく伝わるか、どの単語を使えば適切に伝わるだろうかと出発前の事前研修から発表当日まで一生懸命考え、ソーラン節もメンバー全員で息を合わせて何度も練習を重ねました。ネイティブスピーカーを前に英語で発表するため初めはとても緊張していましたが、この準備が自信となり、研修の成果として堂々とした発表を行うことが出来ました。お世話になったホストファミリーの皆さまにもお越しいただきましたが、発表をご覧になり、生徒たちの英語はもちろん、内容の興味深さや熱心に取り組む姿勢について、お褒めの言葉をいただくことが出来ました。

生徒たちは、この二週間の研修を通じて、言葉が通じないというのはとても不安だということを痛感したことだと思います。「言いたいことや伝えたいことはたくさんあるのに、上手く英語にならない」というもどかしさに苦しみながらも、日に日にこれを乗り越えていく生徒たちの逞しい姿は、近くで見ているだけでも頼もしいものでした。英語は多少自信がなくとも、この「伝えたい内容がある」ということがとても大切であると考えます。その思いや自分の考えがあるからこそ、私たちはコミュニケーションをとることができ、この思いをもっと的確に伝えるためにさらに語学力を磨こうという意欲にもつながっていきます。この経験が気づきとなり、さらに英語力を高め、他者の意見に耳を傾けるなどして大きく成長していった欲しいと思います。

また、イギリスではトヨタ自動車をはじめとする多くの日本製品を目にしました。遠く離れた異国の地で日本を感じる機会があったことは、私たちが国際社会の一員であることを改めて感じる良い契機となりました。今回の交流を通じて、生徒たちがさらに視野を広く持ち、今後ますます活躍していかれることを願ってやみません。

最後になりましたが、ダービーシャー高校生派遣に多大なるご尽力とご指導ご鞭撻を賜りました日本及びイギリスの関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



Burton and South Derbyshire College について

Burton and South Derbyshire College(BSDC)は、メインキャンパスが Burton upon Trent、南ダービーシャーキャンパスがダービーシャーに位置しています。メインキャンパスは駅から歩いて15分ほどの距離で、バス停やショッピングモールが近くにあり、校舎のすぐ側には緑に囲まれた通りもあります。開校60年を迎え、入門レベルから学位取得レベルまで500以上のコースを提供しており、5つのキャンパスで年間13,000人が学んでいます。

大学に進むための過程である Sixth Form、各種職業教育を行う Vocational Education、また大学相当課程の Higher Education を併せ持っており、地元、地方、国レベルでの会社で必要な働き手を育成しています。デザインや建築、コンピュータなどの様々な分野の授業を提供しており、学校が運営する校内のレストランで実習を行う学生もいます。また、教育工学の面での設備が充実しており、プロジェクター、スクリーンが設置されている教室では、マルチメディアを駆使した講義が可能になっています。特別教室も多く存在し、学生たちは図書室や Learner Hub などの充実した学習環境で、豊かな学びを実現しています。



引率教諭として派遣を終えて

山本 岩男（引率教諭）

1 バトラーさんへの恩返し

バトラー夫妻は約30年前私が初めて海外に行った際に週末ホームステイさせていただいた米国デトロイト近郊の家族です。私自身は豊田市の派遣でデトロイトに行ったわけではありませんが、友人がそちらでお世話になったことがきっかけで紹介していただき、数か月間の留學生活中に何度も世話になりました。そのバトラーさんによく言われたのは「私（バトラーさん）に贈り物などで感謝の気持ちを表すのではなく、将来国際交流の促進に貢献してくれるのが一番うれしい」ということでした。第1回目のダービーシャー派遣の引率をさせていただいたことに不思議な縁を感じたとともに、バトラーさんへの恩返しが少しはできたことにほっとしています。

2 目標と評価

引率教諭として私が設定した目標は、第一に生徒が安全に、事故やトラブルに巻き込まれずに

過ごすことでした。体調を崩したり、異文化の生活で緊張した中で少しでも安心できるように精神的サポートをしました。第二の目標は、カルチャーショーの成功でした。

生徒の安全、安心に関してはおおむね達成できたと思います。特に、今回は第1回目ということで、手探りで準備を進め、ギリギリになってさまざまな不安事項が想定されましたが、豊田市国際課、BSDCの関係者、ホストファミリーの協力のおかげで大きなトラブルもなく、無事に元気に帰国できて安堵しています。予想された不安点としては、①バス、鉄道などの公共交通機関を乗り継いで、片道最長1時間30分の通学が生徒だけでできるか。②体調を崩す生徒について、ホストファミリーが仕事で出かけた場合、誰がどこで付き添うのか。③ホストファミリーの日常生活と派遣生徒の期待とのギャップによるトラブル があげられます。



①については、初日にダービー市のバスターミナルから鉄道駅に移動する際に少し、迷った生徒がいました。これは、ホストファミリーが実際に一緒に歩いて案内するという手順を省略したことが原因で、無事に何とかたどりつけたからよかったものの、外国で道に迷った生徒たちの不安は相当大きかったにちがいないと思います。一方、BSDCも通学についてはとても注意を払ってくれました。具体的にはホストファミリーへの説明会で、実際に生徒の通学方法にしたがってバス停の位置、料金の払方などを生徒に現地で説明するように指示してくださいました。また、毎日の交通費を1人ずつ封筒に小銭を入れ、日付、名前等を記入して、渡してくれました。大変骨の折れる作業であり、ありがたいと感じました。②について、毎日健康観察カードを記入させ、それをすぐに点検して、初期対応として、大事になる前に休養をとるように声をかけました。また、このカードに前日の夕食の内容も書くように指示し、バランスの良い食事がとれているか把握に努めました。登校する前にすでに体調不良を訴える生徒に対しては、ホストファミリー宅で静養することと、家族の誰かが必ず付き添うことを確認し、登校してから不調を訴えた生徒は、関係者がFIRST AID ROOMで様子を見たあと、回復傾向であれば他の生徒と合流し、回復する見込みのない場合は早退し、ホストファミリー宅で静養するように指示しました。この場合も決して一人になることなく、誰かが必ず付き添い、急激な変化への対応、精神的なサポートを心掛けてきました。実際に欠席した生徒は2名、早退も2名、腹痛や頭痛を訴えた生徒はのべ8名程度でありました。③について、ホストファミリーとしてはきちんと食事を用意しているのに生徒

はそれに満足できない（例えば冷凍ピザ）、毎日カレー風味の料理ばかり、食器の洗い方が雑で不衛生な気がする、等の意見を表明する生徒もいました。事前に心配したのはホストファミリーが経済的な理由から十分な量の食事を出してくれない、ベビーシッターを毎日させられるなどの健康的、道義的に許容できない内容でしたが、上記の不満はこれらに相当せず生徒が自分で対応できるレベル（例えば、日本食を自分で作る、自分で食器を洗うなど）と判断し、あえて引率者およびBSDCからはホストファミリーに改善を求めることはしませんでした。



2点目の目標であるカルチャーショーも第1回目としては十分合格点をつけられると思います。主な内容は、パワーポイントを用いたプレゼンテーションとダンスのパフォーマンスでありました。プレゼンテーションでは富士山、金閣寺などの日本文化の紹介、松平和太鼓、香嵐溪などの豊田市の紹介、制服、清掃、部活動などの学校紹介、ラウンドアバウト、無料ハイウェイなどの英国文化の優れた点の紹介を各担当者が自分で書いた英文を大きく明瞭な英語で堂々と発表していました。ダンスのパフォーマンスでは女子6人が法被を着て、ソーラン節を踊りました。踊る前に各動作の意味を説明し、その後、音楽に合わせてエネルギッシュに躍動できていました。一緒に掛け声をかけるように呼びかけると、出席者の皆が「ソーラン」、「どっこいしょ」と叫び、一体感が生まれ、盛大なカルチャーショーの幕をとじるのにふさわしいプログラムとなりました。プレゼンテーションのスライドはほぼ日本出発前に準備できていましたが、英文は現地であわてて書く者もいたので、カルチャーショーの準備はもっと早くから始め、出発前にリハーサルができていとさらに完成度の高いものになると確信しています。



豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料

- 1 姉妹都市名 イギリス ダービーシャー3地域
(ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市)
- 2 提携年月日 平成10年(1998年)11月16日
- 3 提携目的 両国民が真の友情を育むことを念願し、互いに協力し合い、融和を促し、相互の文化理解を深めることを目的とする。

4 中学生交換派遣事業

年	学生	団長	副団長	引率教諭	計
平成13年(2001年)	20	1	1	1	23
平成14年(2002年)	20	1	1	1	23
平成15年(2003年)	20	1	1	1	23
平成16年(2004年)	20	1	1	1	23
平成17年(2005年)	26	1	1	1	29
平成18年(2006年)	26	1	1	1	29
平成19年(2007年)	26	1	1	1	29
平成20年(2008年)	26	1	1	1	29
平成21年(2009年)	26	1	1	1	29
平成22年(2010年)	26	1	1	1	29
平成23年(2011年)	27	1	1	1	30
平成24年(2012年)	27	1	1	1	30
平成25年(2013年)	27	1	1	1	30
平成26年(2014年)	27	1	1	1	30
平成27年(2015年)	27	1	1	1	30
計	371	15	15	15	416

5 訪問団の交流

	年	内 容
ダービーシャー→豊田市	平成 11 年（1999 年）	ダービーシャー青少年吹奏楽団 63 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また 2 月 17 日には姉妹都市提携記念碑除幕式を行う。
豊田市→ダービーシャー	平成 13 年（2001 年）	第 1 回ダービーシャー県等親善訪問（25 名）平成 13 年 6 月に完成する豊田スタジアムに因んで、サッカー関係者が姉妹都市を親善訪問。現地チームとの親善試合、英国プレミアリーグ地元チームの試合観戦等を通して交流を行う。
豊田市→ダービーシャー	平成 14 年（2002 年）	第 2 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問（22 名）現地アマチュアカメラマンとの交流を通じて、写真撮影を行う。帰国後は、松坂屋 T-FACE8 階サンシャインホールでの写真展を始め、市内各交流館を循環し写真展を行ない、市民にダービーシャー県等を紹介する。
豊田市→ダービーシャー	平成 15 年（2003 年）	第 3 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問（23 名）ガーデニングをテーマに、ダービーシャー県等を親善訪問。個人庭園や公共施設の花飾りを視察し、豊田市のまちづくりに活かす。
豊田市→ダービーシャー	平成 16 年（2004 年）	豊田文化使節団（日本文化を紹介する伝統芸能（邦楽・民謡・三曲等）による演奏集団（38 名））を結成、演奏会やワークショップ等を通じて姉妹都市との市民レベルの交流を深め、文化による国際親善に寄与する。あわせて、豊田市における文化レベルアップを図り、2005 年「愛・地球博」を広くアピールする。
ダービーシャー→豊田市	平成 17 年（2005 年）	ダービーシャー青少年ジャズオーケストラ 30 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また万博英国ナショナルデーの 4 月 22 日には、万博会場にて公演を行う。
ダービーシャー→豊田市	平成 20 年（2008 年）	姉妹都市提携 10 周年を記念してダービーシャー県からのアーティスト（コンテンポラリー・ダンサー）及び青少年合唱団（27 名）を受入。
豊田市→ダービーシャー	平成 20 年（2008 年）	姉妹都市提携 10 周年を記念して豊田市からアーティスト（三味線演奏者）、ジュニアオーケストラ（42 名）及び市民文化使節団（37 名）を派遣。姉妹都市提携 10 周年を記念して鈴木市長がダービーシャー県等を訪問。
豊田市→ダービーシャー	平成 25 年（2013 年）	豊田市少年少女合唱団の派遣（56 名）、豊田市ダービーシャー公式訪問団の派遣（10 名）、

		ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。
ダービーシャー→豊田市	平成 25 年 (2013 年)	「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展とダービーシャーからの参加団 (6 名) 受入。また、ダービーシャー青少年吹奏楽団 (52 名)、ダービーシャー公式訪問団 (9 名) を受入。
豊田市→ダービーシャー	平成 26 年 (2014 年)	ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。

6 その他

	年	内 容
豊田市→ダービーシャー	平成 13 年 (2001 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (今後の姉妹都市交流のあり方に関する協議)
豊田市→ダービーシャー	平成 14 年 (2002 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (ダービー特別市市制 25 周年記念式典への出席)
-	平成 14 年 (2002 年)	英国大使館の植林活動「日英グリーン同盟」への参加表明のため、イングリッシュオークの植樹を実施。
ダービーシャー→豊田市	平成 17 年 (2005 年)	ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市、フリントシャー市の各事務総長と英国トヨタ自動車(株)のスタッフが来豊。(本市との文化交流について協議)
ダービーシャー→豊田市	平成 19 年 (2007 年)	ダービーシャー県議員デイブ・ウィルコックス氏、姉妹都市担当ステファニー・ウォルシュ氏来豊(2008 年(平成 20 年)の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ)
ダービーシャー→豊田市	平成 20 年 (2008 年)	南ダービーシャー市議長マイケル・バイル氏夫妻来豊(2008 年(平成 20 年)の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ)
豊田市→ダービーシャー	平成 24 年 (2012 年)	太田市長ダービーシャーを訪問。 (2013 年(平成 25 年)姉妹都市提携 15 周年記念事業打合せ)
-	平成 25 年 (2013 年)	姉妹都市提携 15 周年記念式典を豊田市能楽堂にて開催。また、姉妹都市提携 15 周年を記念して、豊田市とダービーシャーの中学生が、1つのテーマについて共に考え、意見交換を行う「豊田・ダービーシャー子ども会議」を開催。
豊田市→ダービーシャー	平成 26 年 (2014 年)	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。

Golden Days Abroad in Derbyshire

～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～ 2014

第1回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書

●編集・発行 豊田市企画政策部 国際課

〒471-8501 豊田市西町 3-60 TEL0565-34-6963

e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp